

水神松	水	推	三河一(松)	正法院松	杉	權現松	神明松	般若松	松	全	紫太郎松	重那紅葉	神木松	
全所南嶽	全村大字青長樂寺境内	全町大字青郷社阿岩神社 拜殿前	赤羽根村大字岩見字平澤七番地	全村大字高松正法院本堂前	泉村大字石神字西山ノ上慈眼寺内	泉村大字石神字西外山山王社北側	全村大字伊川津字郷中村社神明社内	全町般若寺境内	高師村大字大崎字船渡村社 若宮八幡社境内	全上	高豊村大字七根字東渡邊高橋繁太郎宅地内	全所高橋重那宅地内	高師村大字大崎字船渡村社 若宮八幡社境内	
一三〇	一五〇	一三〇	二八〇	一九〇	二〇一	一五〇	一八〇	一七〇	一五〇	一一三	一一〇	五〇	一五〇	
五	六	四	一五	一〇	一一	五	七	一〇	一一三	一三	五	三	一三五	
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	二五〇	二五〇	三〇〇	二八〇	二八〇	二八〇	二四〇	二五〇	二八〇	
									此ノ松ハ神木トテ祭典ノトキ此ノ木ニ注連ヲ張ルヲ例トシ 氏子等ノ古キ御札符等ヲ根元ニ納ムル舊慣アリ又近海ノ 航ノ船魚等風雨非常ノ際唯一ノ目標トナシ居レリ又社頭ノ 松ニ寄セタル詠進ノ詩歌俳句數十首アリ					

△八名郡

普通ノ呼名	所 在 地	地上五尺ノ周囲	高(大約)	樹(大約)	傳
榎	大野町小學校芝園脇	一一〇+	五	三〇〇	
榎	舟着村大字日吉日吉神社々殿后	三六〇	一〇	五〇〇	
推	全村大字吉川日吉神社々殿后	一五〇	一〇	四〇〇	
杉	八名村大字八名井天神社境内	二五〇	七、五	二三〇	
松	全村大字富岡大屋敷	一五〇	六、六	二〇〇	
△クノ木	全村大字一鐵田小林峯松宅地内	三五〇	七	四〇〇	
松	豊津村豊津神社々前	一一〇	二〇	二三〇	
松	三上村天神社拜殿横	一一〇	一一	二五〇	
銀杏	石巻村大字西川西河院境内	一四〇	八	二〇〇	
杉	全村大字嵩山正宗寺境内	一五〇	一一	二〇〇	
榎	石巻村大字玉川正八幡社境内	一八〇	四	二〇〇	
松	全村大字三輪石巻神社境内	一八〇	一〇	二〇〇	
全	全村大字多米神社前	一五〇	六	二〇〇	
榎	全村大字中山大藏神社	二〇〇	七	二〇〇	
榎	全村大字玉川瀬戸八幡社	一四〇	六	一〇〇〇	

△豊橋市

普通ノ呼名	所在地	地上五尺ノ周囲	高(大約)	樹齡(大約)	傳説
松	大字關屋悟眞寺境内寺裏	二〇三	一一六	二〇〇	
櫻	全所墓地ノ南方	一一四	一〇	二〇〇	
古鐘ノ松	大字東田字東郷全久院境内	七〇	一〇	三〇〇	三河八景之内全久院古鐘ノ松ト稱シ居レリ
城趾ノ松	大字東田字郷浦村社稻荷社境内	九〇	八	三〇〇	舊仁連木城主戸田宜光ノ城跡ニアルヲ以テ斯ノ名稱ヲ稱ヘ居レリ
古金松	大字四八九十四番戸本田スニ宅地内	九五	七	二〇〇	口碑ニ徴スルニ現時持主ヨリ前々代加治某前代ヨリ口實ハ該樹ヲ古金松ト稱シ此松樹ニ對シ左ノ雜歌ノ一首ヲ記載ス 朝日さす夕日かがやく木の元 <small>に</small> 小判千兩歌 <small>ノ</small> 一首ヲ記載ス ハ持主カ嗣子ナキカ故ニ此ノ松木ノ根元ニ埋メタルヲ以テ口傳スルト云フ
大椎	大字岩崎鞍掛神社境内	一一五	七	二五〇	
公孫樹	大字魚熊野神社々前	一三〇	六	不詳	
松	大字紺屋神宮寺墓内	一一六	一一	全	
茶屋ノ松	大字東八神野三郎宅地内	一二五	四、五	五〇〇	池田候城主タリシ當時東海道ノ幹線ニシテ該所ニ茶屋アリシカ故ニ斯ノ名稱ヲ附セリト云フ此ノ松樹ニハ大蛇住ト云ヒ傳ヘ目下神野氏ノ持チナリ
禊止ノ櫻	大字岩崎字山神路傍	一一二	三、五	六〇〇	該所頼頼公通行ノ際此ノ櫻樹ニ駒ヲ繫キタリトテ其ヨリ以テ此ノ名アリ
公孫樹	大字魚熊野神社前	一三〇	六、六	不詳	
松	大字紺屋神宮寺墓地内	一一六	一一、六	不詳	

三十町歩以上ノ社寺有林

面	積	樹種	所在郡町村	社寺名
三六、四四〇三	杉、檜、山赤楊	東春日井郡赤津村	雲興寺	
四一、二七一〇	黒	丹羽郡城東村	寂光院	
五二、五九二八	黒	全郡犬山町	瑞泉寺	
五〇、八八〇四	松、アカシヤ	知多郡東浦村	乾坤院	
五六、五七一六	檜、杉	額田郡岩津村	龍溪院	
三〇、八四二〇	檜、松	南設楽郡千郷村	泉龍院	
六九、八八〇九	檜、松、杉	寶飯郡八幡村	財賀寺	
六五、七八一六	黒	全郡豊川町	妙嚴寺	

松 大字湊神明社前
 大字岩崎鞍掛神社境内東方
 境外
 大字花田字羽田長全寺境内
 門前
 大字東田字郷庚申堂ノ傍

老松 一一五 八、六 二〇〇
 天文年間ノ七本松ト云フ

此ノ所在地ハ郷ト稱シ往古某ノ産地ニシテ天照皇大神宮ニ奉テ獻納シ此ノ地名ヲ賜ヒタルモノナリト云フ右樹ノ所在地ハ某貯蔵倉庫ノ跡ナリト言ヒ傳居レリ

三六、〇五二三	檜、黒松	全郡一宮村	松源院
五七、九〇〇二	檜、樟、松	八名郡石巻村	正宗寺

備考 三十町歩以上所有ノ神社ナシ

荒廢地ト地質 (續)

愛知縣林業技手 柿原明 十調査

三 東春日井郡地質説明

地勢

東春日井郡ハ尾張ノ東北隅ニ位シ東北ハ木曾山系ニ屬スル花崗岩山岳ヲ以テ繞ラシ北方ヨリ西ニハ古生層ヨリ成レル飛驒山系ノ一支脈ト第三紀ノ丘陵ヲ以テ美濃ニ接シ南ヨリ西ニ繞リテハ低平ナル平野ヲ以テ所謂尾濃ノ平野ニ連絡ス而シテ其中央部ハ重ニ第三紀ノ丘陵ヨリ成ル、郡ノ東北隅ナル三國山ハ海拔二千三百餘尺其南隣ナル猿投山ノ一角ハ海拔二千五百餘尺ニシテ此兩山岳ノ西南面ハ急轉直下シテ赤津品野ノ丘陵ニ接続ス沓掛ノ定光寺山内津ノ彌勒山、内津山、野口ノ白山ハ郡ノ北方ヲ繞レル高峯ニシテ七百尺ヨリ千餘尺ノ間ニアリ是レ等ノ諸山ハ其脈多クハ西南ニ延ビテ第三紀層ニ連ル、要之本郡ハ一般ニ東及北方ニ高クシテ南及西南ニ斜下ス從テ其河流モ西南スルモノ多シ玉野川、矢田川、水野川、内津川、大由川等アリ玉野川ハ美濃ノ多治見ヲ過ギ品野村ニ於テ上半田川ニ發源スル尾品川ヲ合セ水野村ニ於テ上品野ニ發源シ水野ヲ灌溉スル水野川ヲ入レ關田ノ南ニ於テ内津ヨリ發源スル内津川ヲ合セ西春日井郡ニ

入ル、矢田川ハ瀬戸町内ニ發源シ三郷ニ於テ赤津ヨリ發スル赤津川ヲ合セ西々南流シテ西春日井郡ニ於テ玉野川ト合ス大山川ハ篠岡村ノ大山ニ發源シテ西南流シテ西春日井郡ニ入ル

地質

本郡ヲ構成スル地質ハ

- (1) 成層岩
 - 一 片麻岩系
 - 二 秩父系
 - 三 第三紀系
 - 四 第四紀系
 - イ 洪積層
 - ロ 沖積層
 - (2) 塊狀岩
 - 五 花崗岩
 - 六 花崗斑岩
 - 七 斑岩
- 更ニ是レヲ詳述スルコト次キノ如シ
- (-) 片麻岩系

本系ハ品野ヨリ美濃ノ坂下ニ通ズル街道ノ片草以東ノ縣界ニ近ク極メテ小露出アルノミ主ニ領家片麻岩ニ屬シ剝狀ニシテ裂罅ニ富ミ三河ニ於ケル領家片麻岩ト大同小異ナリ
 - (二) 秩父系

本系ハ上中部秩父系ニ屬スル古生層ナリ其發達區域ハ是レヲ東ヨリスレバ品野村ノ東北國境ニ小露出アリ而シテ此層ハ上半田川ニ於テ一旦第三紀層ニ被ハレ更ニ沓掛ケニ於テ定光寺山ヲ起シ玉野川ヲ越ヘテ國境ヲ北ニ走リ内津山ヨリ西轉シテ丹羽郡界ヲ西走シ小松寺ニ於テ洪積層下ニ歿シ小牧山ニ盡ク定光寺山ヨリ西南走スルモノハ水野ノ東谷山ニ盡ク、本郡内ニ於テ本層ヲ構成スル岩石ハ粘板岩、硬砂岩、石英岩ナリ、粘板岩ハ黑色又ハ黝色ノ泥質物ヨリ成ル稍緻密剝狀ヲナセル岩石ナレドモ本郡ニ現出スルモノハ稍趣ヲ異ニス上半田ノ東部及小松寺附近ノモノハ著シク硬化セラレ下半田川ノモノハ紅柱石ノ巨晶ヲ伴ヒ高藏寺ノモノハ水戸ノ空晶石ニ似タル細微ナル紅柱石ヲ多量ニ含有ス是レ畢竟此地方ノ古生層ハ後成ナル花崗岩ニ貫通セラレタル結果ニ外ナラズト信ス東谷山ノ粘板岩ノ如キ殆ド其本体ヲ失スル迄ニ至レリ硬砂岩ハ暗灰色又ハ黝灰色ノ岩石ニシテ組織ハ中粒及細粒狀ナルヲ常トスレド高藏寺外原附近ニ露出スルモノハ堅硬緻密ニシテ粘板岩ノ細片ヲ含有シ顯微鏡下ニ微小ナル褐茶色ノ鑛物ヲ包有ス其他ハ概ネ細粒狀ニシテ灰色ヲ呈スレドモ硬度高シ石英岩ハ主ニ玉野川附近ニ於テ前記兩者ノ間ニ薄層ヲナシテ介在ス、灰白色又ハ黝灰色ノモノ多シ

第三紀系

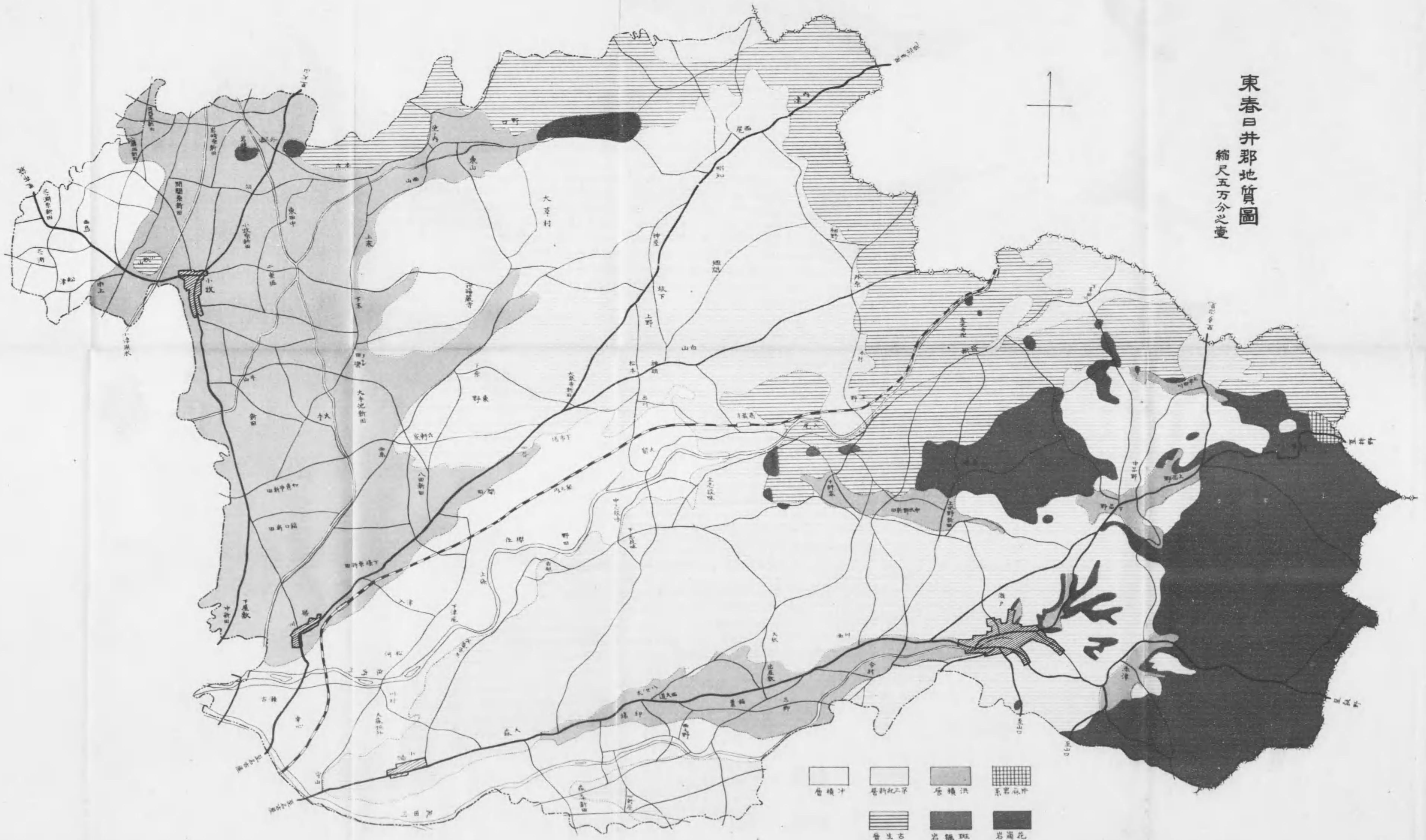
本層ハ第三紀新層ニ屬ス

本層ハ矢田川ノ上流地方矢田川ト玉野川ノ中間高地郡ノ西北方ノ内津街道ノ兩側地方ノ丘陵地ニ發達ス本郡ニ於テハ本層ノ發達區域極メテ廣ク荒廢地モ殆ド本層ヲ以テ主要部分トナス本層ノ主要岩石ハ礫岩頁岩砂岩浮石砂亞炭ナリトス而シテ各岩石ノ成層狀況ハ素ヨリ一樣ナラズ赤津附近ニ於テハ花崗岩質砂岩上層ヲ占メ瀬戸附近ニ於テハ花崗岩質砂岩ノ上部ニ頁岩即チ粘土層アリ更ニ其上部ニ礫岩層アリ亞炭ハ頁岩層中ニ發見セラル、モノ多シ其他ノ地方ニ於テハ上層ニ礫岩層アリ下層ニ頁岩層アルヲ以テ最モ普通ナル成層狀況トナス但シ陶地方ニ於テハ上層ノ礫岩層ハ甚メ薄層ナリ處多キガ如シ礫岩ハ主ニ古生層



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

東春日井郡地質圖
縮尺五万分之壹



- | | | | |
|-----|-------|-----|------|
| | | | |
| 層沖 | 層新紀二第 | 層横沢 | 系岩成片 |
| | | | |
| 層生古 | 岩礫取 | 岩崩花 | |



ノ岩片ヲ少量ノ粘土ヲ以テ膠結ス瀬戸地方ニ於テハ厚層ヲナス釉藥ノ材料タル「ゴス」ハ此礫層中ニ介在ス、砂岩ニ三種アリ一ハ花崗質ノ砂岩ニシテ主トシテ花崗岩或ハ花崗斑岩ノ霏爛ヨリ生シタルモノニシテ赤津地方ニ發達ス磁器ノ材料タル石粉ハ成分タル長石片ヨリ硝子ノ原料ハ石英粒ヨリ採取ス一ハ前記砂岩ト長石ノ分解ニヨリテ生シタル粘土ト相混シテ成レルモノニシテ瀬戸地方ニ於テ磁器用ノ粘土トシテ採掘スル「蛙目」ハ其一種ニ外ナラズ一ハ普通河ノ硫砂ノ堆積シタル細砂ノ層ニシテ玉野川ノ西北方ニ頁岩層中ニ介在ス頁岩ハ泥質物ノ結合ニシテ凝灰質ナルコトアリ砂質ナルコトアリ有機質物ヲ混合スルコトアリテ一様ナラズ木楠ト稱スルハ有機質物ヲ含有スルモノニシテ凝灰質又ハ砂質ナルモノハ各所ニ發見セラル、龍泉寺附近ノ斷崖ニ見ル淡青黝灰ナル岩石ハ此地方ニ於ケル稍々硬度高キ頁岩ニシテ他ハ概テ軟弱ニシテ乾燥スルトキハ裂罅ヲ生シ易ク潤濕ナルトキハ粘土狀トナル浮石砂ハ未ダ分解セザル硅酸多キ玻璃質ノ火山噴出物ノ集積シタルモノニシテ磨砂ノ原料トナル、之ニ地下深處ノ頁岩層中ニ薄層ヲナシテ介在ス、亞炭ハ第三紀新層時代ノ植物ノ堆積物ニシテ上部ノ頁岩層ト下部ノ頁岩層トニ存在スルモノ、如シ下部ノモノハ厚層ヲナシ採掘ニ堪ユレドモ上層ノモノハ薄層ニシテ實用ニ適セザルモノ、如シ然レドモ木楠粘土ハ上部亞炭層ノ下位ヲ占ムルガ如シ

要之スルニ本郡ヲ構成スル第三紀新層ノ諸岩石ハ悉ク結合力ニ劣シク容易ニ崩壊スルノ性質ヲ有スルコトハ事實ナリ

第四紀系

本系ハ所謂尾張平野ノ東北部ヲナセルモノニシテ本部ノ西南部ヲ占ム本系ノ古層ナル洪積層ハ砂、礫及礫層質ノ粘土ヲ以テ構成セラレ新層ナル沖積層ハ前記諸川ノ沖積作用ニナレル砂粘土ノ集積シタルモノニシテ兩者共ニ農耕ノ地タリ

花崗岩

本岩石ハ主トシテ赤津村品野村及篠岡村ニ大露出ヲナス其他地質圖ニ示スガ如ク古生層ヲ貫キテ各所ニ小露出ヲナス、一般ニ古生層以後ノ花崗岩タルコトハ古生層ニ接觸變質ノ證據物ヲ殘留スルヲ以テ知ラル而シテ其主成分ハ黒雲母、石英、長石ニシテ稀ニ角閃石ヲ有スルコトアリ其組織ハ東部東春日井郡ニアリテハ粗粒狀ニシテ其外部ハ極メ霏爛シ易ク又霏爛ノ部分ハ廣大ノ面積ヲ有シ一面崩壞ヲ透引シツ、アルト同時ニ其崩壞物ハ種々ノ工業材料トシテ盛ニ使用セラル、西部ノ岩崎山ニ露ハル、花崗岩ハ稍々細粒狀ニシテ建築材ニ使用セラル

花崗斑岩

本岩ハ篠岡村ノ大山ニ露出ス前記花崗岩ト同成分ニシテ只其組織ガ成分中ノ長石ガ巨晶ヲナスノ差異アルニ過ギス瀬戸、品野、水野地方ニモ長石ノ巨晶ヲ産スルモノアレドモ大山ノモノニ及ブモノナシ而シテ花崗岩ト花崗斑岩トハ其區別容易ナラズ獨リ大山ノモノノミ一區域ヲナスヲ以テ茲ニ是レヲ區別スルノ便ヲ得タリ

斑 糝 岩

本岩石ハ水野村ニ於テ古生層ヲ貫キテ存在ス斜長石異剝石ノ結合体ナリ

四 丹羽郡地質説明

地 勢

丹羽郡ハ尾張ノ北隅ヲ占メ西北一帯ハ木曾川ニ臨ミ東北一帯ハ飛驒山系ノ一支脈ヲ以テ美濃國ニ接ス而シテ南部ハ尾張平野ノ北邊ニ位ス黒平山ハ池野村八曾ニアリ郡中ノ最高峯ニシテ海拔千八十餘尺アリ本宮山ハ同シク池野村ニアリ海拔九百六十餘尺本宮山ト相對シテ小富士山アリ海拔八百九十餘尺共ニ郡中

ノ高峯ニシテ悉ク古生層ノ山岳ナリ此ノ如ク高峯ハ東北ニ存在シテ西南ハ平野ノ域ニ屬ス

木曾川ハ城東村栗栖ニ於テ本郡ノ北境ヲナシ郡界ニシテ且國境ヲナシ西南流ス成澤川ハ今井ニ發源シ入

鹿池ニ注グ八曾川ハ美濃ヨリ來リ八曾ニ於テ本郡ニ入ル是レ亦入鹿池ニ注グ入鹿池ハ周圍凡ソ三里ト稱ス本縣ニ於ケル最大ナル湖水ニシテ人造湖ニ屬ス

地 質

本郡ヲ構成スル地質ヲ大別スルコト次ギノ如シ

成 層 岩 類

- 一 上 中 部 秩 父 系
- 二 第 三 紀 系
- イ 古 期
- ロ 新 期
- 三 第 四 紀 系
- ハ 洪 積 層
- ニ 決 積 層
- 塊 狀 岩 類
- 四 花 崗 岩

更ニ是レヲ詳説スルコト次ノ如シ

上 中 部 秩 父 系

本系ハ飛驒山脈ノ一支脈ヲナス尾張北部ノ連山ニシテ東春日井郡ニ連ル城東村池野村ニ發達ス主要ノ岩石ハ硬砂岩、粘板岩、石英岩、角岩、ヲヤオラリヤ硅板岩、石灰岩トス

硬砂岩ハ古生代ノ砂岩ニシテ八會川附近ニ小露出アリ粘板岩ハ多クハ他岩石ノ貫通ニヨリ硬化セラレタルモノ多シ然レドモ後成的ノ副成分タル接觸礦物ヲ發見セズ小富士山附近ニ發達ス

石英岩、本宮山、八會川附近及城東村ニ發達ス

本宮山ニ於テハ稍塊狀ヲ呈スレドモ其他ニ於テハ完全ナル薄層ノ累層ヨリ成ル此累層中其含有物ノ如何ニヨリ褐、紫、黝等アリ是レ等ノ累層ハ尾北ノ美觀ナリ

角岩ハ石英岩ト同成分ナレドモ非結晶質ナルノ差アリ城東村栗栖及善師野ニ前記石英岩ト頁層ヲナシテ存在ス

ラチオラリヤ硅板岩ハ犬山城邊栗栖、繼鹿尾、黒平山ニ僅カニ發達ス

石灰岩ハ八會ニ於テ硬化セラレタル粘板岩中ニ薄層ヲナス黝黑色ニシテ緻密堅硬ナリ縣下ニ産スル石灰岩中一特色ヲ有スルト同時ニ實用ニ堪ヘ難シ

第三紀系

古 期

本系ヲ構成スル岩石ハ砂岩頁岩ニシテ城東村善師野及今井ニ發達ス

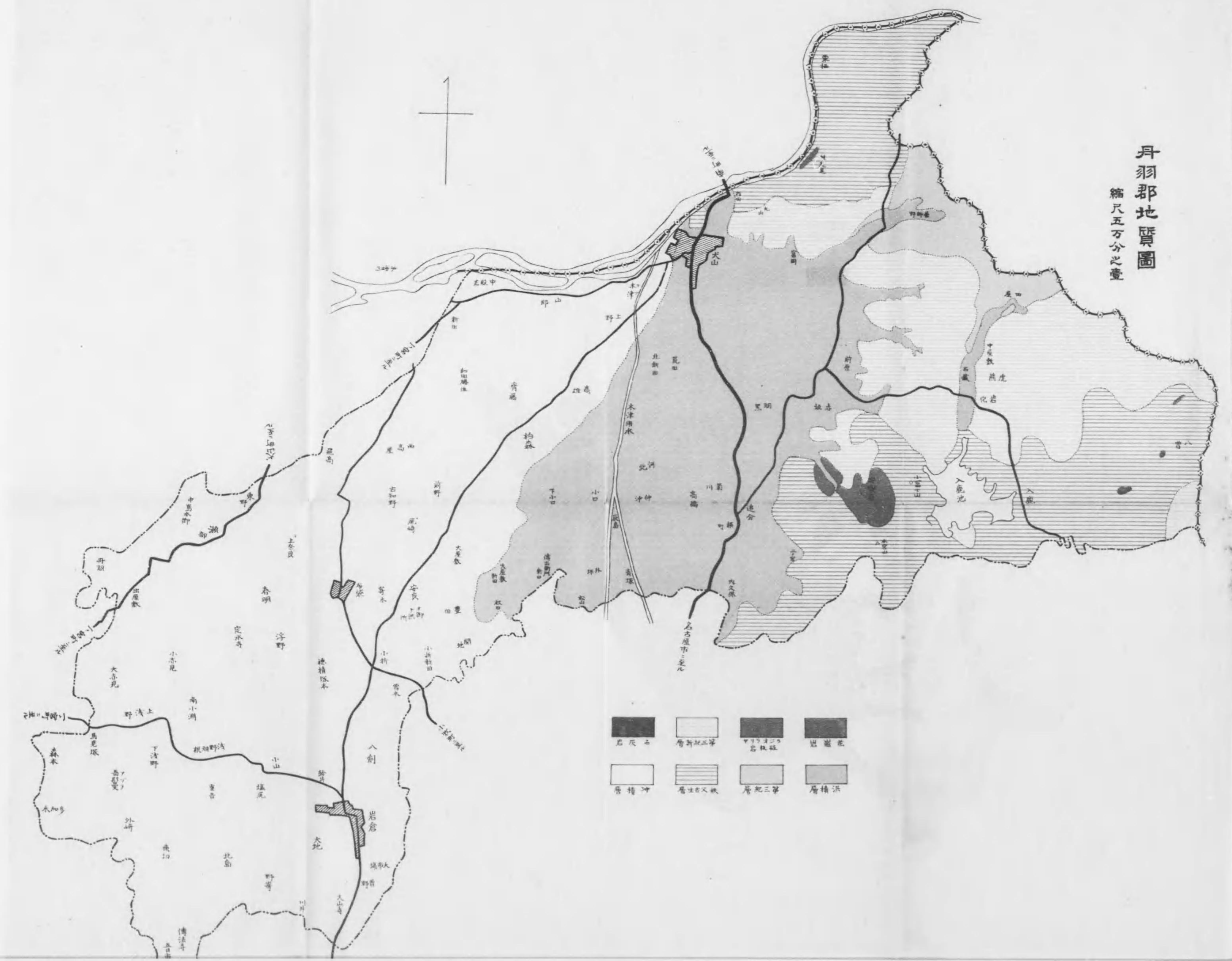
砂岩ハ細粒ナルモノ粗粒ナルモノトアリ粗粒ナルモノハ善師野産ニ屬シ多量ノ木葉化石ト硅化木トヲ介在ス細粒ナルモノ主ニ今井産ニ屬シ未タ化石ヲ發見セス竈石ニ使用スルハ善師野産ナリ

頁岩ハ砂岩ノ下層ヲ占ムルガ如シ稍々軟弱ニシテ紫、褐等ノ色ヲ呈ス

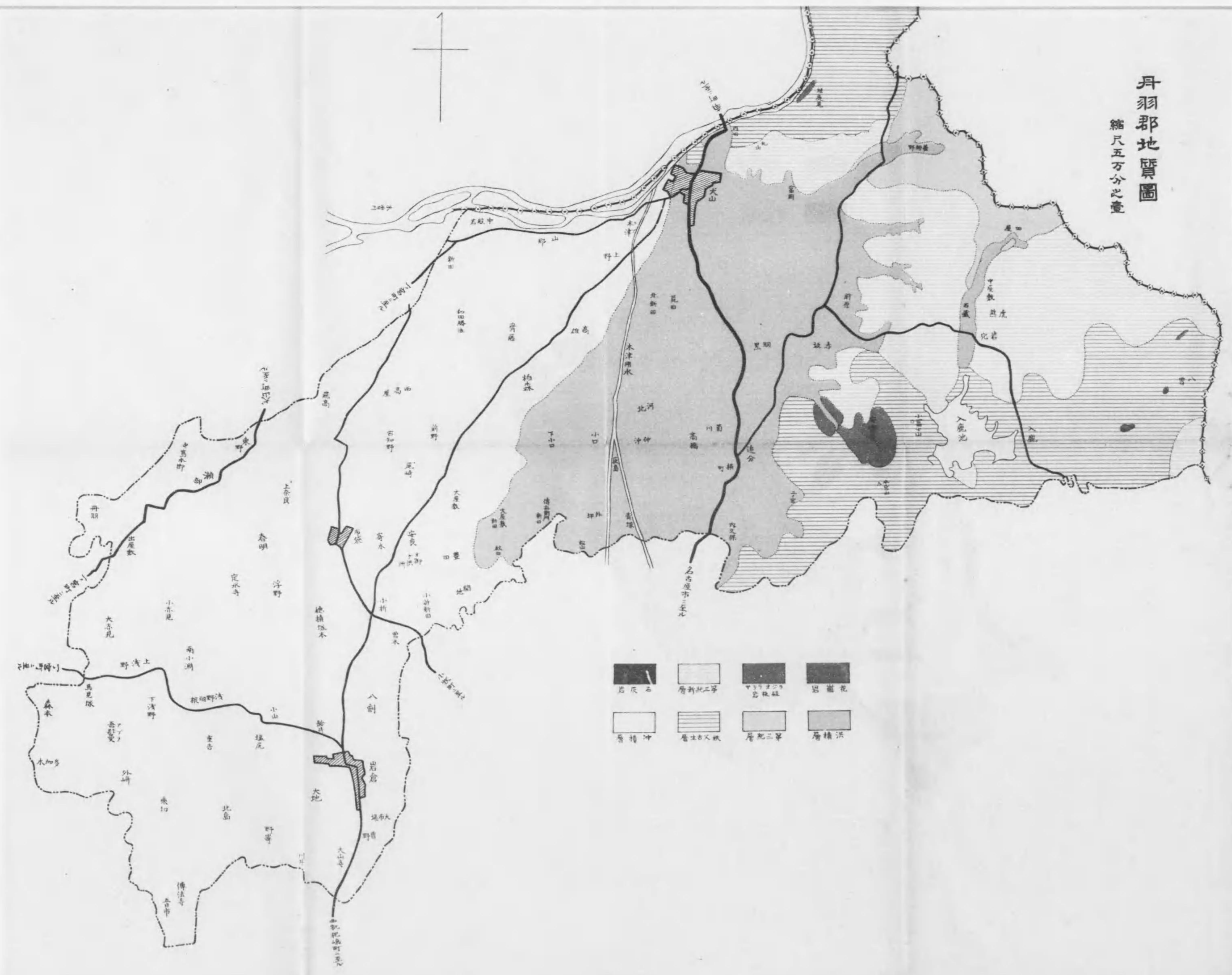
新 期

本期ハ尾張ニ於ケル第三紀新層ニ屬ス砂岩礫岩頁岩(粘土)ノ累層ニシテ今井、樂田方面ニ於テハ礫岩其上部ヲ占メ頁岩破岩ノ薄層ハ僅カニ存在ヲ認ムルノミ善師野、犬山方面ニ於テハ上部ニ礫ノ薄層アリ他ハ頁岩ナル場合多シ犬山ニ於ケル犬山燒ノ原料ハ蓋シ此層中ヨリ採掘ス

丹羽郡地質圖
縮尺五万分之壹



丹羽郡地質圖
縮尺五万分之壹



本期ニ於ケル諸岩石ハ悉ク脆弱ニシテ結合力極メテ鈍シ土地荒廢ノ因蓋シ是レニ歸因セズンハアラズ

第四紀系

古期 (洪積層)

本期ハ犬山街道ノ東部ノ大面積ヲ占ムル臺地ノ平野ニシテ礫、粘土、砂ノ累層ヨリ成ル

新期 (沖積層)

本期ハ犬山街道ノ西部ノ殆ド全部ヲ占ム上部ニ細微ナル砂層下部ニ礫層ヲナス

本紀ハ本郡ニ於ケル重要ナル農耕地タリ

花崗岩

本岩石ハ黑雲母花崗岩ニ屬シ粗粒ナリ小富士山附近ニ發達スルノミ

本岩石ノ噴出シタルコトニヨリ粘板岩ニ變質ヲ與ヘノミナラス新ラシキ鑛物モ同岩石中ニ成生セシメタ

リ安樂寺ノ鑛山是レナリ今廢坑ニ屬ス

林業講話講習會ノ開催

本縣林業講話規程ニ由リ本年度縣下各地ニ於テ開催セラレタル林業講話講習會ハ左ノ如シ

郡	町村	場所	時 日	期 間	生 聽 講 數	開 催 主 體	講 師	備 考
東加茂	旭	築羽小學校	四月十日	一日	八〇	旭村	關 技 手	竹林栽培
全	全	牛地尋常小學校	自五月五日	二日	六〇	全	柿原林業技手	間伐實地指導
寶飯	蒲郡	蒲郡尋常小學校	自七月二十六日	四日	一五	蒲郡町教員協會	柿原林業技手	地質及林業ニ就キ及實地指導

東加茂	旭	牛地々々内	自九月二十二日 至全月二十三日	二日	四五旭	村	飯田林業技手	野丸太實地指導
知多	横須賀	横須賀高等小學校	十一月二十九日	一日	六五	知多郡第二部教 育會	柿原林業技手	林業及地質ノ大意
全	全		十二月二十日	一日	四五全		全	地質學大意 林業ノ實地指導ニ就キ
東加茂	旭	牛地々々内	自十二月廿二日 至全月廿四日	三日	三五旭	村	飯田林業技手	野丸太實地指導
額田	岡崎	郡役所	自三月十日 至三月十二日	三日	五〇郡農會	三溝林業技手 谷口林業技手	林業一般	

保安林標柱建設

明治四十四年四月農商務省訓令第七號標柱建設規程ニ依リ大正三年度ニ於テ縣下保安林ニ建設セシ標柱左ノ如シ

年 度	郡	村	箇所	本 數
大正三年度	東春日井郡	味岡村	一	一〇
計				一〇

木製品競技會ノ開催

愛知縣商品陳列館ハ工業界ノ實際的發展方法トシテ技工獎勵會ナルモノヲ計劃シ工人ノ技術發達ニ刺撃ヲ與ヘ、覺醒ヲ促シ改良進歩ニ盡力シツ、アリシガ、其第三回ノ企圖トシテ、木製品競技會ヲ大正三年

十月十七日ヨリ十一月十五日迄同館本館内ニ開會セリ、極メテ機宜ニ適シタル催シトテ頗ル盛況ヲ呈シ出品點數九百七十七、出品人員百七十七ニシテ、當業者ニ甚大ノ利益ヲ與ヘタルハ云ハズモアレ、一般購買者側ニトリテハ、木工技術進歩ノ狀況ヲ知り其趣味好尚ヲ之ニヨリテ明カニスルヲ得、大ニ好評ヲ博セリ、由來當市ハ、本邦ニ於ケル有數ノ木材工場ニシテ、其ノ年々集散スルトコロノ木材積積ハ頗ル巨額ニシテ、木工業ノ發達ハ幕府時代ヨリノ古キ歴史ヲ有シ、其ノ材料ノ優良ナル、價格ノ低廉ナルヲ特徴トシテ各工場ノソレニ比シテ名聲ヲ博セルコト既ニ久シカリシガ爾來一般社會ノ變遷ニツレテ、木工品ニ對スル需用ノ好尚モ亦變化シ、在來ノ器具ニモ幾分ノ改良ヲ加ヘラレ、又新タニ外國品ノ模造、又ハ和洋折衷ノ製作品等ヲ要求スルコト大ナルノ現時ニ至レリ、顧ミテ當市ノ木工工藝界ヲ見ルニ、多クハ只舊來ノ風習ニ捕ヘラレ徒ラニ豊富ナル材料ト、低廉ナル勞力トヲ有シナガラ、他都市ノ製作品ニ比シテ、粗惡陳套等ノ惡評ヲ蒙ルモノ漸次多キヲ加ヘ來レルノ傾向アリ、コノ時ニ當リテカ、ル企圖ノ下ニ多數資本主ト技匠トノ競技會、品評會ヲ催シ其發展改良ヲ期セルハ誠ニ欣喜ニ堪エザルトコロニシテ、當市斯業界革新ノ一曙光ハコ、ニ發現セリト云フベシ。當業者ハ此會合ヲ利用シ、將來ノ發展ニ努力シ、コノ企圖ヲシテ有意味タラシムルニ盡ササルベカラズ

十一月十一日舉行シタル褒賞贈與式ニ於ケル審査委員長三溝本縣技師ノ申告ヲ摘記スレバ左ノ如シ
日本指物及荒物ハ材料製作ニ於テ稍々佳良ナルモノアリト雖モ概シテ粗製ノ傾キアリ西洋指物及家具ハ近年著シク發達シ意匠及製作ノ改良ニ考慮ヲ盡シタル點アルモ概シテ高尙雅致ノ趣味ニ乏シク未ダ稚氣ヲ脱セズ將來研究ノ餘地アリト認ム特ニ木材ノ乾燥及塗料ニ注意ヲ要ス建具類ハ元來一定ノ寸法ヲ有スルモノアルヲ以テ斬新ナル變化ヲ許サズ其意匠構造ニ特ニ技術ヲ要スルモノナルニ拘ラズ平凡ノ域ヲ脱セサルハ遺憾ナリ
箆筒類ハ材料ノ撰擇ト製作ニ注意ノ周到ナルモノアルモ概シテ外觀ノ美ニ流レ耐久力ノ反ツテ減シタ

ルモノアリ特ニ金具塗料ノ色澤等外觀ノ調和ヲ破リタル歎點アルハ最モ遺憾トスル所ナリ數寄屋道具
 恭將基盤ハ出品中時ニ優秀ナルモノナキモ材料ノ適用及構造ニ考案ヲ盡シタルモノアリ
 唐木細工ニ稍々優等ナルモノアルモ技工ニ於テ尙ホ改良ノ餘地アルヲ認ム其火鉢棚物ニ於テ意匠考案
 ノ稍々見ルベキモノアリ
 額縁鏡臺ハ材料ノ應用製作ニ稍々見ルベキモノアリト雖ドモ尙意匠構造ニ於テ將來改良ヲ要スルモノ
 アルヲ認ム

桶類ハ概シテ材料ノ撰擇技工ノ優等品アルモ構造ノ新案ニ出デ、反ツテ美觀ヲ害シ保存上ノ歎點ヲ生
 ズルノ嫌アルト工作ニ尙幾分ノ歎點アルヲ遺憾トス曲物ニ於テハ曲材ヲ車輪ニ應用シタルモノ等稍々
 見ルベキモノアルモ出品點數少ナク優品ナキヲ遺憾トス

「キルク」製品ハ元來壘口ノ詰メ用トシテ多ク使用セシモ近來顯著ナル進步ヲナシ種々各方面ニ應用セ
 ラルニ至リタルハ誠ニ喜ブベキ現象ナリ今後尙ホ研究ヲ重ネ需用ノ増進ヲ計ランコトヲ希望ス

合板ハ近來我邦ノ貴重ナル裝飾用木材ノ日ニ月ニ歎乏シ來リ價格騰貴ノ今日ニ於テ其業ノ興レルハ寔
 ニ時ヲ得タルモノニシテ倍々斯業ノ發達ヲ希望シテ止マザルナリ

挽物類中特ニ紡績織布器械ノ附屬品ニ幾分見ルベキモノアルモ其製作ノ規模小ニシテ製品ノ均一ヲ歎
 クヲ遺憾トス將來之ガ改良ヲ要ス

玩具類ハ其出品點數少ナク其全般ヲ知ルヲ得ザルモ將來其ノ改良發達ヲ計ヘテ要ス特ニ其着色方法及
 意匠ニ注意センコトヲ望ム

木製品競技會褒賞狀贈與氏名表

- 褒賞狀 一等 (金盃) 合板 淺野吉次郎
- 西洋家具 河瀬名古屋支店

褒賞狀 二 等	(銀盃)	卓子	近藤錦造
全	(全)	障子	黒田茂助
全	(全)	飾戸	水谷重兵衛
全	(全)	書戸	安藤銀次郎
全	(全)	筆筒	戸屋清三郎
全	(全)	膳戸	鈴木常三郎
全	(全)	欄間	青山市太郎
全	(全)	鏡臺	久田武兵衛
全	(全)	櫃	平岩曉呼
褒賞狀 三 等	(木盃)	自由疊本箱	平岩仙之助
全	(全)	自由疊本箱	渡邊友芳
全	(全)	鏡臺	成瀬善兵衛
褒賞狀 四 等	(木盃)	帳筆筒	後藤松次郎
全	(全)	帳筆筒	坂佐七
褒賞狀 五 等	(木盃)	鮮箱	山口鉄吉
全	(全)	鮮箱	外十二名

因ニ此競技會ニ基キテ其後山口商品陳列館長初メ市内當業者十數名ノ發起ニヨリ木工協會創立ノ舉ヲ

愛知縣山林會ノ活動

○大正三年十月二十四日第五回總會ヲ名古屋市中區門前町愛知縣商品陳列館ニ於テ開催ス有功章授與式ヲ舉ゲ午後講演アリ、出席者八百名、同館内ニ同館主催ノ木製品競技會アリ、頗ル盛會ヲ極ム

○會報ヲ發刊シ會員ニ頒布ス

○郡部會ハ總會及講習會ヲ開キ又視察員ノ派遣ヲナシ活動スル所アリタリ

第七章 法 規

縣令第五十二號

明治四十四年一月縣令第三號公有林野造林補助規程中左ノ通改正ス

大正三年七月二十二日

愛知縣知事 法學博士

松

井

茂

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

四、前記各號ノ土地ニ天然造林ヲ施行シタルモノハ其費用ノ四分ノ一以內

第三條中「又ハ造林ノ爲メ地盤ノ保護工事ヲナシタルトキハ其費用ノ十二分ノ十一以內」ノ三十五字ヲ削除ス

訓令第四十號

明治三十年十一月訓令第七十三號ヲ左ノ通改正ス

大正三年九月二日

愛知縣知事 法學博士

松

井

茂

郡市町村其ノ他公共團體負擔ノ堤塘、道路及竝木敷ニ於ケル竹木ノ植栽又ハ伐採ニシテ第一號ニ該當ス

郡	市	町	町	郡
役	役	村	村	水
所	場	組	組	利
	合	合	合	水

- 八 平面圖、縱斷面圖及構造圖
- 九 工費概算
- 十 本事業資金及收支概算
- 十一 竣功期日
- 第三條 第二條ノ出願ヲ爲サムトスルニ當リ全條第五號第六號及第八號ノ實施圖書類ヲ調製シ難キ場合ハ其ノ大體ヲ記載シタル圖書ニ依リ許可ヲ受クルコトヲ得
- 第四條 第三條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ指定期間内ニ第二條ニ基キ圖書ヲ呈出シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 知事ハ公益上必要ト認ムルトキハ許可ニ條件ヲ附スルコトアルベシ
- 第六條 個人又ハ會社ニ於テ其ノ事業ノ專用ニ供スル索道ニシテ道路、河川、其ノ他公用ニ供スル土地ヲ通過シテ架設スル場合ニハ本則ノ規定ヲ準用ス但シ本條ニ依ル出願ニハ第二條第九號及第十號ノ事項ヲ具備スルヲ要セス
- 第七條 工事ノ全部竣成シタルトキハ其ノ旨届出テ知事ノ監査ヲ受クヘシ但シ索道一部ノ使用ヲ爲サムトスルトキニ限リ其ノ一部ノ竣成シタル部分ニ對シ監査ヲ受クルコトヲ得
- 第八條 索道ハ知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第九條 許可ヲ受ケタル者ハ半年毎ニ左記事項ヲ調査シ三十日內ニ届ツヘシ
 - 一 一日平均運轉時間及回轉數
 - 二 運搬貨物ノ總噸數及賃金總額
 - 三 落貨アリタルトキハ其ノ日時、場所、原因及事實
- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ工事ノ變更中止

- ヲ命シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ其ノ使用ヲ停止若ハ制限シ又ハ危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトアルヘシ
 - 一 本則又ハ本則ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキ
 - 二 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ
 - 三 正當ノ理由ナクシテ許可ヲ受ケタル日ヨリ三箇月內ニ工事ニ着手セス又ハ竣功期限後六箇月ヲ經過シ尙竣功セサルトキ
 - 四 其ノ他公益上必要ナリト認メタルトキ
 - 第十一條 知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ許可ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移スコトヲ得ス
 - 第十二條 許可ヲ受ケタル者死亡シ其相續人ニ於テ之ヲ承繼セントスルトキハ死亡者ノ戶籍謄本ヲ添附シ十日內ニ其ノ旨知事ニ届出ツヘシ
 - 第十三條 本則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 - 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタル場合ニ於テハ前項ノ科料ヲ法人ニ適用ス法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ被告トス
- 附 則
- 第十四條 本則ハ大正四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第十五條 本則施行前索道ヲ架設シ現ニ之ヲ使用スル者ハ大正四年五月三十一日迄ニ出願許可ヲ受クヘシ

備

考

人夫ハ適度ノ傾斜ニ切均シ直高何尺毎ニ何尺巾ノ階段ヲ設ケ能ク擔キ固メ積苗工仕上迄一式

長一尺巾一尺厚二寸ノモノヲ以テ壹枚トス

長一尺打違ヒ三尺繩メノモノヲ以テ壹束トス

全 上

人夫ハ適度ノ傾斜ニ切均シ直高何尺毎ニ何尺巾ノ階段ヲ設ケ能ク擔キ固メ筋工仕上迄一式

長一尺打違ヒ三尺繩メノモノヲ以テ一束トス

全 上

人夫ハ何ヶ處何間水路擔キ固メ張芝及薄付水路張芝ニ一式

長一尺巾五寸厚二寸ノモノヲ以テ一枚トス

長一尺打違ヒ三尺繩メノモノヲ以テ壹束トス但水路兩側植付用

人夫ハ棚杭打編欄共仕上迄一式

長何尺末口何寸

長六尺三尺繩メ(元口徑七八分)ノモノヲ壹束トス

人夫ハ床堀土運搬擔固メ表法張芝薄付仕上迄一式

馬踏何尺敷何尺表法高何尺何割法裏法何尺何割法

長一尺巾五寸厚二寸ノモノヲ以テ一枚トス

長一尺打違ヒ三尺繩メヲ以テ一束トス

積苗工及筋工何間ニ對シ植付及施肥迄一式

滿二年生一回床替ヲナシタル良好ナルモノヲ「アカチヤ」苗木ト交互ニ混植スベシ

滿一年生ノ良好ナルモノヲ黒松苗木ト交互ニ混植スベシ

植付苗一本ニ對シ何ノ勿施肥ス

百八十三

第壹號樣式

國 郡 村 大 字 字

有 林

大 正 年 度

地 盤 保 護 植 樹 設 計 書

大 正 年 月 調 製

設 計 者 官 公 職 氏 名 印

申 請 者 土 地 所 有 者 (管 理 者) 氏 名 印

百八十二

國 郡 村大字 字

有 林

大正 年度

地盤保護工事設計書

大正 年 月調製

設計者 官公職氏名 印

申請者 土地所有者(管理者)氏名 印

(第三號樣式)

何郡何町村有林

地盤保護植樹施業地

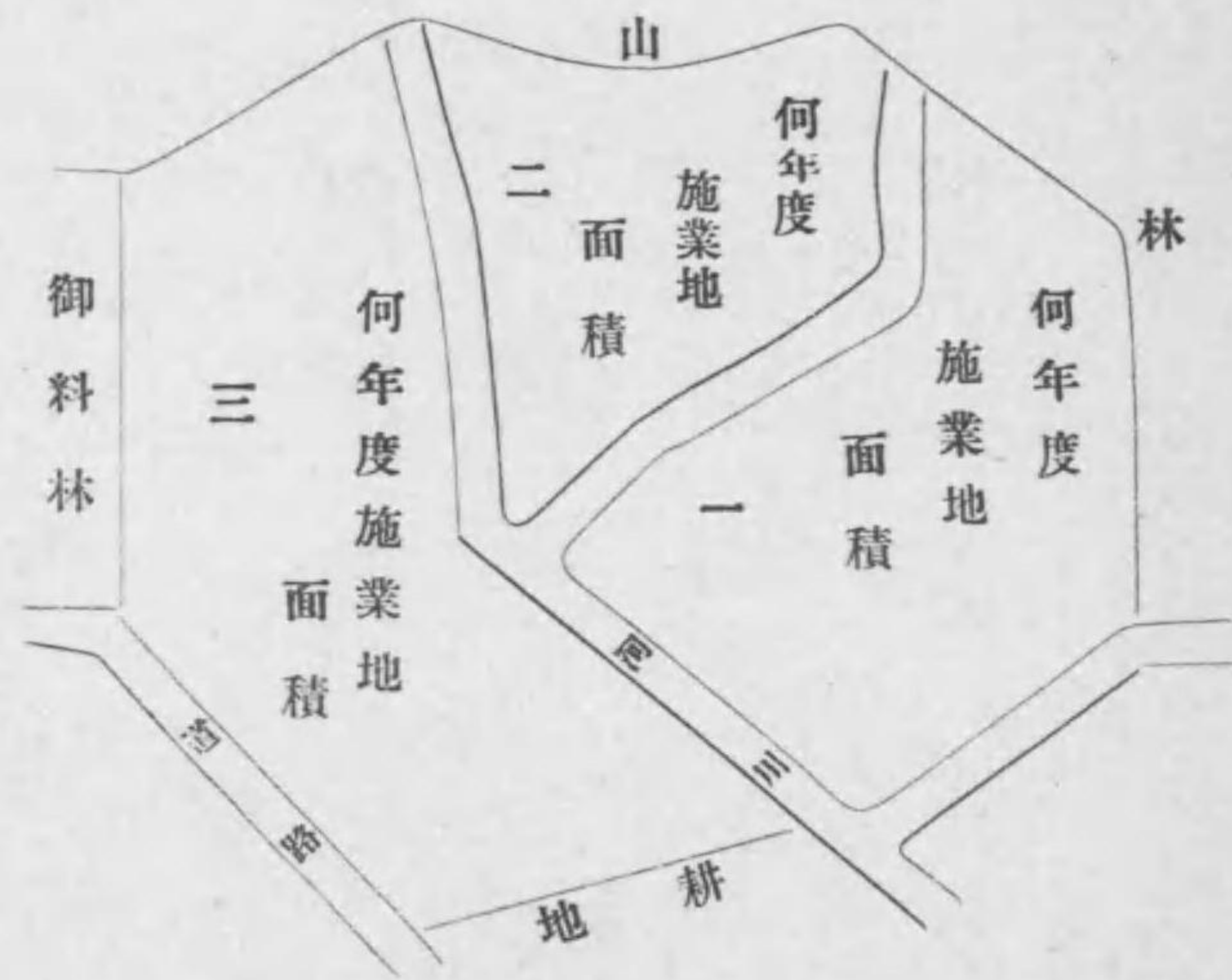
實測圖

(又ハ地盤保護工事

施業地實測圖)

面積

縮尺 分ノ一



紫	黃	洋	藍	朱	凡 例
御料林	耕地	山林	河川	道路	

附

溫
故
知
新

錄

(七)

目次

愛知縣山林會第四回總會ニ於ケル本縣知事ノ式辭……………一九三頁

竹林ノ保護……………一九八頁

砂丘ト造林……………一三九頁

愛知縣山林會第四回總會ニ於ケル式辭

愛知縣山林會々頭法學博士

松

井

茂

本日第四回愛知縣山林會總會ニ臨ミ茲ニ一言ノ式辭ヲ述ルノ機ヲ得タルハ頗ル欣悅ニ堪ヘナイ次第デアリマス此處ニ此機ヲ利用シテ少シク本縣山林ニ關スル所感ヲ述ベ會員諸君ト共ニ本會將來ノ發達ヲ計リ度イト思フノデアリマス

申ス迄モナク山林ハ治水ノ根本義デアツテ特ニ時代ノ進ムニ從ヒ他ノ殖産興業トノ關係ハ一層密接トナリ又文明國ニ於テハ山林ハ地方自治ノ基礎ト迄稱セラレテ居ル位デアリマス本縣モ亦爰ニ見ル所アリ夙ニ官民共ニ之ガ經營ニ志シ又維新前ニ於テモ尾張三河ハ特ニ斯道ノ爲ニ奮勵怠ラス江戸市場ニ於テモ三河材ハ遠州材ト共ニ能ク其聲價ヲ博シ得テ居リタル次第デアリマス

現時尾張ノ各地ニ散在セル砂防地ノ如キモ維新前ニ於テハ林地タリシガ其後濫伐ニ濫伐ヲ重テテ終ニ今日ノ如キ慘狀ヲ呈スルニ至ツタノデアリマス且ツ之カ爲メニハ非常ニ多額ノ經費ヲモ要スルニ至ツタノデアリマス

抑モ本縣ノ面積ハ約五十萬町步デアツテ山林ハ實ニ其半ヲ占メ而シテ又其ノ山林ノ半ハ頗ル荒廢地ニ歸シ全國中ヨリ見ルモ我愛知縣ノ植林經營ノ如キハ前途遼遠尙頗ル之カ努力ヲ要スベキ餘地アル事故將來諸君ト共ニ益其成績ヲ舉クル事ヲ期スル次第デアリマス

現在ニ於テモ本縣ノ荒廢地復舊タル砂防工事ノ如キハ夙ニ朝野ノ注目スル所ニシテ朝鮮ノ觀光團ノ如キハ其地ノ實況ニ照ラシテモ之ニ倣フノ必要アルガ爲ニ必ズ之ガ視察ヲ遂行シ居ル次第デアリマス
余ノ本縣ニ赴任以來巡視スル所ニ依レバ三河ハ概シテ林業ノ盛ナル所ニシテ南北設樂東西加茂額田八名等ノ諸郡ノ如キ何レモ相當ノ成績ヲ舉ケテ居ル事ハ同慶ニ堪エナイ次第デアリマス

次ニ此ノ地方附近ニ於ケル山林家ト木材業トノ關係ヲ見ルニ隣リノ静岡縣ト同様ニ同一人ニシテ山林ノ經營ト木材商トヲ兼テ居ルノ實況デアル然ルニ之ニ反シテ吉野地方ニ於テハ兩者ハ完全ニ分業ニナツテ居ル而カモ兩者ノ間ハ頗ル圓滿ニシテ能ク意志ノ疎通モ出來テ居ルトノ事デアリマスガ此点ニ就キテモ經驗アル諸君ノ考慮ヲ煩ハシタイモノデアリマス

本縣ニハ夙ニ林業熱心家トシテ故ノ古橋囀兒翁及同源六郎翁等ノ人物ヲ生シ又一面ニ於テハ木材商ノ名古屋ニ於ケル關係ハ全國中頗ル優勢ナル地位ヲ占メ尙製材木工等ニ於テモ治績アルモノガ少クナイノデアリマス

去レバ諸君ニ於テモ努力セラレ故人ノ後ヲ辱カシメヌ様ニ一層奮勵努力セラレタイモノデアリマス樟樹植林ノ如キモ之ヲ既往ノ成績ニ徴スレバ其良否ハ未定ノ問題デアルガ兎ニ角既ニ之ガ試験ヲ開始セルノ今日ナレバ之ヲ遂行スルノ必要ガアルト思ヒマス又竹材ノ如キモ名古屋ヲ經テ他地方ニ輸出スル製作品ハ約貳百萬圓以上デアツテ其材料ノ多クハ他府縣ヨリ仰クトノ事デアルカ今回山林會ヲ舉行セラレタル此南設樂郡ノ如キモ夙ニ竹ノ植栽ハ有望ナル地デアルト稱セラレテ居ルトノ事ナレバ折角之ガ發達ニ力ヲ致サレタイモノデアアル本日斯道ノ大家タル坪井翁ヲ聘シテ竹ニ關スル講演ヲ請ヒタルノモ畢竟スルニ之ガ獎勵ヲ希望シタル趣旨ニ外ナラヌ次第デアリマス且ツ薪炭ノ如キモ漸次其生産量ハ減少スルノ傾向アルカ故ニ之ヲ増殖セシムルノ必要ガアリマス且ツ薪炭ノ如キモ最モ之ガ燒方ニ注意シテ殊ニ薪炭組合ノ設立等ニハ努力スルノ必要ガアリマス又煙リ利用即チ醋酸製造法ノ獎勵ノ如キハ一層緊急ノ事ニ屬スル事ト思ヒマス

次ニ少シク縣有林學校演習林郡有林等ヲ視察セル結果ニ付キ之ガ所感ヲ述ベタイト思ヒマス先ツ東加茂郡ニアル郡有林ノ事デアリマスガ同郡ニテハ卒先シテ能ク百年後ノ計畫ヲ定メタル次第ニテ縣有林ヨリモ一ヶ年早ク施業ノ計畫ヲ定メ又地元トノ部分林ノ契約モ完全ニ出來テアリマスノハ實ニ感心ノ外ハ

アリマセヌ又ハ縣立農林學校ノ演習林モ非常ニ愉快ナル心持ヲ以テ視察シタノデアリマス何トナレバ學校ノ基本財産ヲ設クルト同時ニ生徒ノ演習材料ニ供スルト云フ事ハ甚々進歩シタル考ヘデアルカラデアリマス尙北設樂郡有林ハ三里ノ林道中一里ハ既ニ完成シタト云フ事デアリマスガ是亦斯道ノ爲メニ頗ル悦ブ可キ事デアリマス

曩日北設樂郡ノ鴨山ノ郡有林ヲ視察スルヤ其高山ヨリ遠ク遠州ヲ望ミ遙カニ同地瀨尻ノ植林地ヲ眺メタル次第デアアルガ同植林地ハ余リ前任地ニ於テ實踐シタル所而カモ余ノ平素畏敬セル金原明善翁ガ當時五百人ノ人夫ヲ卒ヒテ躬行シタル國家の事業トデモ稱スベキモノデアアル余ハ昨夜モ當地ニ於テ金原翁及端山翁ニモ話シタル所デアアルガ實ニ林業ハ關係の感化ノ大ナルモノニシテ彼我相感應シテ爰ニ經營宜シキヲ得タルモノデアアル又縣内ソレ自身トシテモ我縣ノ縣有林ノ如キ郡有林ノ如キモ互ニ相關聯シテ此ニ合理的ニ之ガ施業ヲ見ルニ至リタル次第ニシテ之ガ經營ノ當初ト現時トハ其地方人心ノ感想ヲ異ニシ山林思想ハ益々健全ノ域ニ進ミ尙其感化ハ進ンデ私有林ニ及ヒ今ヤ附近私有山林漸次良好ナル狀態ヲ示スニ至リタル次第デアアル願ハクバ此實歴ニ鑑ミ將來本縣下ノ山林事業ニ對シ官民ハ益々共同一致シテ之ガ有終ノ美ヲ收メ度キモノデアリマス

次ニ尙公有林野ノ整理ニツキ一言シヨウト思ヒマス公有林整理事業ノ緊要ナルハ今更論ヲ俟タヌ事デアリマスガ元來森林事業ハ永久のニ計畫ヲ立テ其收入ノ如キモ可成平均的ノモノヲ望ムモノデアアル故其性質上町村ノ基本財産トシテハ最モ之ニ適當スルモノデアリマス故ニ我國ノ政府ニ於テモ之カ獎勵ヲナシテ居ル次第現ニ歐州ニ於テモ益々之カ進歩發達ヲ期シテ居ルトノ事デアリマス云フ迄モナク古人ノ謂ユル衣食足りテ禮節ヲ知ルトノ言アルカ如ク基本財産ナキ町村ハ決シテ之ガ發達ヲ望ム事ハ出來マセヌ要スルニ公有林ノ備アリテコソ町村ノ基礎ハ益々強固トナルノデアリマス本縣ニ於テモ山本源吉翁ハ夙ニ額田郡宮崎村長トシテ村内ノ公有林ヲ整理セラレタル苦心談ハ余ノ一昨年静岡縣ノ山林會ノ席上ニ

於テ親シク之ヲ聽キテ大ニ感心シタル次第デアリマス其他本郡ノ千郷村渥美郡ノ赤羽根村北設樂郡ノ上下津具村ノ如キハ皆能ク之ガ整理ヲ了シタリトノ事ニテ誠ニ快心ノ情ニ堪ヘマセス何卒諸君ニ於テモ益々此点ニツキ甚大ノ御盡力アラントヲ希望シテヤマヌ次第デアリマス

次ニ一言森林ノ取締ニ關シテ所感ヲ述ベタイト思ヒマス本縣ノ保安林ハ遺憾ナガラ未タ十分ニ發達セルモノト云フ事ガ出來マセヌ蓋シ其大部ハ神社ノ保安林デアリマス元來保安林ノ如キハ御役所ノ方面ノ事業デアル様ナ誤解ニ陥ラス事ガ最モ大切ノ事デアリマシテ成ルベク自治的ニ村方又ハ地元ヨリシテ之ガ必要ニ迫リ編入ヲ請フ様ニナラヌモノデアリマス此點ヨリシテ保安林ノ如キモ之ガ思想ノ注入ニ就テハ誤解ナキ様山林會ノ事業トシテモ盡力スルノ必要ガアロウト思ヒマス

林業上最モ恐ルベキハ山火事デアル一朝森林ニシテ火災ノ襲フ所トナル時ハ百年ノ計畫ハ忽チ水泡ニ歸シ附近住民ノ森林ニ對スル思想ニモ大ナル惡影響ヲ來スベキモノデアリマス現ニ伊豆ノ伊東附近ノ山林大火災ノ實例ニ徴シテモ明瞭ナル次第デアリマス故ニ火災豫防ノ方法トシテハ多少ノ經濟的ノ不利ハアルトモ適當ノ防火線ヲ設定スルノ必要ガアリマス又林内喫煙所ノ設備等モ大ニ獎勵シタイモノデアリマス山林ニ火入ヲ行フハ野蠻ナル未開時代ニ行ヘル遺風ニシテ總テノ點ニ於テ有害ナルモノデアルカ豫防ハ警察官ノ力ノミニ依リテ完全ニ目的ヲ達シ得ルモノデハナイノハ勿論ニシテ主トシテ地方町村民ノ自治的觀念ノ發動カ必要デアリマス僅カニ縣有林ニ一人ノ巡查ヲ置キ又砂防ノ爲メニ二十人ノ森林警察官ヲ設ケ專ラ之カ目的ヲ達スル上ニ於テ之ニノミニ依頼スルハ過レルノ甚シキモノニシテ素ヨリ警察官ノ設置モ必要ナルガ山林所在地ノ地方民ノ火災豫防的精神ハ尙更一層必要ナル次第デアリマス

次ニ一言シタイノハ森林ト國民思想トノ關係ノ事デアアル同シ植林ヲナスニツキテモ成ルベク趣味アル方法ヲ採ラル、事ガ必要デアリマス先般モ井上侯ノ與津別莊ニ於テ益田孝君ヨリ聽イタ事デアリマス歐米デハ「バタ」ヲ作ルニハ諸種ノ油ノ木ヨリ之ヲ製作スルトノ事ニテ益田君ハ垣根ニ試ニ油桐ヲ植工可成國

益チ計ラントノ趣意ニテ井上侯モ余ニ縣下ニ油桐植栽ヲ獎勵セヨト云ハレタ事デアリマスガ徒ラニ垣根ヲ不生産的ナル方法ニ作ランヨリハ如此植栽方法ヲ活用スルノハ頗ル趣味アリ且ツ生産的ノ遺リ方ダト存ジマス又學校ノ生徒ニ植林思想ヲ養成スル時ハ鞏固ナル思想ヲ鼓吹スルコトガ出來マシテ斯クシテコソ後チ各方面ニ活動スルニ及ンデモ各種ノ事業ヲ企ルニ當リテモ必ズ成功ス可キモノト信ジマス古來ノ西諺ニモ「植林ハ自然ト思想トヲ結ブノ橋デアル」「獨逸ノ自由ハ森林ヨリ生ズ」ト稱シテ居リマスガ教育者タル者ハ宜敷考ラ此ニ致シ吳々モ山林思想ニ依リテ青年ノ鞏固ナル思想ヲ鼓吹シタキモノデアリマス其他森林組合ノ發達等ニ付キテモ會員諸君ノ考慮ヲ煩ハシタイモノデアリマス尙序ニ一言スベキハ萬一將來本縣下ニ施業スベキ林地ノ欠乏ヲ告ルガ如キ時期到來センカ林業家ハ宜敷進ンデ他府縣ニ出ルモ可ナリ彼ノ有名ナル吉野ノ土倉氏ノ如キハ現ニ他府縣ニ多クノ林地ヲ有シテ居ルノデアアル殊ニ余ノ諸君ニ勸誘シタキハ朝鮮ノ植林經營ノ事デアリマス何卒此方面ニモ縣人ノ大ニ發展セン事ヲ望ム次第デアリマス終リニ山林會ニ對スル所感ヲ述ベ様ト思ヒマス山林會ハ林業ノ改良ヲ目的トシ官民一致シテ山林ノ發達ヲ期スベキハ今更申シ上グル迄モナキ次第デアリマス故吳々モ諸君ニ將來益々熱心ニ御盡力アリタキモノデアリマス

本日ハ會員中功勞章ヲ授與セラレタル者モ頗ル多ク又其物故者ニマデ及ビタルノハ甚ダ悦ブヘキ事デアリマス
尙此等受賞者諸氏ハ山林會ヲ代表シテ名譽ヲ荷ハレタル事故此上一層本事業ノタメニ盡力ヲ乞フ次第デアリマス本日ハ山林局長ノ代理トシテ渡邊地方課長ハ態々大林區署長會議中御多忙中ニモ係ラズ來場セラレ又本多博士、村田技師、金原明善翁、坪井伊助翁、殿岡靜岡山林會副會長、其他縣會議員諸君ノ出席セラレタル事ハ本會ノ光榮トスル所ニシテ深ク感謝スル次第デアリマス
又本郡ノ主催ニテ本會並ニ林產物ノ品評會ガ斯ノ如キ盛會ヲ見ルニ至リタル事ハ會員諸君ト共ニ本郡

竹林ノ保護 (本報告第十
一號ノ續編)

山田實平

二、淡竹林收支計算

己ニ成林シタルモノ

収入之部 (一町歩最近五ヶ年平均)

種目	收穫量	單價	價格	備考
竹材	七十五駄	參圓四拾錢	貳百五拾五圓	
竹荒籾	百貫	貳圓八錢	貳拾八圓	
竹枝	二百八十貫	拾六圓八拾錢	拾六圓八拾錢	
止筍	五百貫	拾四錢	七拾圓	
計			參百六拾九圓八拾錢	

支出之部

種目	數量	單價	價格	備考
肥料 人糞尿	千四百貫	貳錢四厘	參拾參圓六拾錢	四ヶ年ニ一度六千貫ヲ施スモノ トシテ計算ス
敷草	千五百貫	壹錢參厘	拾九圓五拾錢	四ヶ年ニ一度八千荷ヲ施スモノ トシテ計算ス
土砂 土入用	二千荷	拾貳圓	拾貳圓	
伐竹費	七十駄分	拾五錢	拾圓五拾錢	
租稅及諸負擔		拾八圓也	拾八圓也	苦竹林ニ比シテ所得稅少ナキニ ヨル
雜費		五圓	五圓	
計			百拾四圓四拾錢	

收支差引金貳百五拾五拾四拾錢ノ利益

三、孟宗竹林收支計算

己ニ成林シタルモノ

収入之部 (一町歩、最近五ヶ年平均)

種目	收穫量	單價	價格	備考
竹材	百貳拾駄	貳圓五拾錢	參百圓	
竹荒籜	貳百貫	七錢	拾四圓	
竹枝	參百六十貫	參錢	拾圓八拾錢	
止リ筍	參百貫	拾錢	參拾圓	
合計	參百五拾四圓八拾錢			
支出之部				
種目	數量	單價	價格	備考
肥料	千四百貫	貳錢四厘	參拾參圓六拾錢	四ヶ年ニ壹度六千貫ヲ施スモノトシテ計上ス
敷草	千五百貫	壹錢參厘	拾九圓五拾錢	四ヶ年ニ壹度八千荷ヲ施スモノトシテ計上ス
土砂	二千荷	六厘	拾貳圓	
土入用	男二十人 女十人	男一人五拾錢 女一人二十七錢	拾五圓八拾錢	苦竹林ニ比シ所得稅少ナキニ依ル
租稅及諸負擔			拾八圓	諸害ニ對スル保護苦竹淡竹ヨリ少ナキニヨル
雜費			參圓	

伐竹費

計 拾八圓 百拾九圓九拾錢

收支差引金貳百四拾貳圓四拾錢

四、孟宗畑收支計算
 (イ) 己ニ成林シタルモノ
 收入之部 (一反歩、最近五ヶ年平均)

種目	收穫量	單價	價格	備考
筍	四百五拾貫	拾五錢	六拾七圓五拾錢	
竹材	一駄半	七拾錢	壹圓五錢	
竹枝			貳拾五錢	
竹籜			拾錢	
合計			六拾八圓九拾錢	
支出之部				
種目 <td>數量</td> <td>單價</td> <td>價格</td> <td>備考</td>	數量	單價	價格	備考

十七年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	六九、二六九
十八年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	五六、九八二
十九年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	四四、〇八一
二十年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	三〇、五三五
二十一年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	一六、三一二
二十二年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	× 一、三七八
二十三年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	一四、三〇三
二十四年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	三〇、七六八
二十五年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	四八、〇五六
二十六年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	六六、二〇九
二十七年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	八五、二六九
二十八年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	一〇五、二八二
二十九年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、〇五〇	一二六、二九六
三十年	六八、八〇〇	五三、〇五〇	一五、七五〇	一四八、三六一

第一年目ニ於ケル支出金ノ細別ハ

- 拾五圓 開墾費 一町二廿 五錢
- 六圓八拾錢 母竹四拾本 一本二廿 拾七錢
- 壹圓貳拾錢 右ニ對スル支柱
- 九拾錢 藁參拾束 一束二廿 參錢
- 貳圓八拾八錢 人糞尿百貳拾貫 一貫二廿 貳錢四厘
- 五圓參拾五錢 男八人 施肥、除草、母竹植付、灌溉其他管理八夫
- 七圓 女五人 借地料

合計 參拾九圓拾參錢

第二年目ヨリ逐次施費土入敷草等ノ量ヲ増加シ四五年目ニ至リ一定ノ量ニ接近セシムルモノトス
 以上ノ計算表ヨリ見ル時ハ竹林ノ一町ハ實ニ樹林ノ拾町歩ト匹敵スルヲ見ル可ク施業周約ノ度ハ後者ノ
 遠ク及ハザル處ニシテ特ニ孟宗畑ノ如キハ殆ント林業ノ範圍ヲ脱シ從ヒテ或特種ノ場合例ハハ製紙原料
 ナ供給スル場合等ノ外ハ小面積ノ施業ヲ希望スルモノナリ故ニ竹林業ハ副業的ノ性質ヲ有ス之余ノ之ヲ
 獎勵スル第二ノ理由ナリ

第二項 竹材ノ利用

材幹通直ナル点ニ於テ中空ナル点ニ於テ、纖維、通直而モ強靱ナル点ニ於テ或ハ割裂性ニ富ム所以ヲ以
 テ將々又彈力性ニ富ムノ理由ヲ以テ往古ヨリ頗ル重要視セラレタルハ竹材ナリ
 所謂狩獵時代ニ於テ彼等ノ生命タル弓矢ハ如何ニ之レ何レモ竹材タルナリ
 人皇第十四代仲哀天皇態襲征討ノ砌筑紫ノ香椎之宮ニテ竹籜ヲ以テ草履ヲ作ラシメ給ヘリト又紙ナキノ
 時代ニ於ケル古文書ハ竹簡ニ刻ミ舜筆ヲ作ルニ及ビ緋布ヲ以テ之ニ代ユト之等ノ事實ヲ綜合スレバ竹ノ

利用ノ甚々遠キ古ヘニ起因スルヲ察スルニ餘アリ
 古來我國民ハ竹木ニヨリ生活ナシタルモノナリトハ安藤林學士ノ口癖ナリ殊ニ台灣ニ於テハ竹ハ彼等ノ
 生命ナリト云フモ過言ニ非ラザル可シ。試ニ台灣ヨリ竹類ヲ取リ去リタルトセンガ彼等ハ居ルニ家ナク
 盛ルニ糧ナク椀ナク茶碗ナク行クニ輿ナク渡ルニ船ナク一日モ安全ニ今日ヲ送ル能ハサルベシ
 疑々タル世ノ開明ハ益々竹材ノ必要ヲ迫リ年ニ七百萬圓以上ノ需用額ヲ示スニ當リ而モ供給ハ四分ノ一
 ニ滿タズ竹林育生ノ必要急ナリト謂ベシ
 需用供給ノ關係ニ就キテハ結論ニ於テ再説スベシ

第三項 竹ノ風致的價值

王守仁曰、竹有君子道四焉、中虛而靜、通而有間、有君子之德。外節而直、貫四時、而柯葉無所改、有
 君子之操。○應、墊而出、遇、伏而隱、雨雪晦明、無所不宜、有君子之時。清風時至、玉聲珊珊、中采齊、而
 協、肆夏、揖遜俯仰、若、沐浴、隸賢之交集、風止、穎靜、挺然特立、不、撓、不、屈、若、虞、挺、群、后、端、冕、正、笏、而、立、於
 堂、陛、之、側、有、君、子、之、容、。

人生ハ要スルニ已ガ如ク直カレト亭々トシテ高ク雲ヲ衝キ霜雪ノ下猶蒼鶴トシテ綠ヲ滴下ス氣骨アル哉
 旭窓ガ詩ニ曰ク

風枝露葉無塵垢。直節虛心耐霜雪。
 晉代七賢唐六逸。官情總爲此君忘。

晋ノ七賢唐ノ六逸此清キ竹ヲ友トス宜ナルカナ、
 又竹ノ異名ヲ此君、君子、化龍、瀟洒君、抱節君、等ト稱ス。四時綠色ヲ呈シ其色ヲ替ヘザルヨリ古來
 支那ニ於テハ之ヲ大雅節操ニ擬シテ之ヲ稱賛スル事如斯
 又我國ニ於テモ竹ノ廉直ナルヲ讀ミタルモノ多シ

まつすぐにはびこります君が代はすまで強き竹の根からみ
 ゆたにすなはたりせば吳竹のよのうきふしは何にしむらん

又廿四孝之中ニ「道ばゆがまぬ弓取の直なる竹の根元より云々」トアリ又小説ノ嚆矢タル竹取物語ハ其

「ヘロイン」ヲ竹ノ中ヨリ生ル、如ク作ル亦故ナキニ非ラザルナリ
 又竹ハ月ニ配シ雪ニ配シ其他種々ナル四季ノ景物ニ配合シ頗ル風致ニ富ムモノニシテ和歌、俳句、狂歌ト

ナリテ今日ニ傳ハルモノヲ見如何ニ雅客ノ間ニモテハヤサレシカチ知ルニ足ルベシ
 骨折りの夜はあけにけり竹の雪
 若竹の裏よ表よ風の月
 己が葉に月朧なり竹の春
 翠の露曉の山寒し
 露に感ある竹の林かな

我が宿のいさくむら竹吹風の音のかりけき此ゆふへかも
 千代もしる竹のおひたさ宿なれば千草の花は物ならなくに
 吳竹のうきふしけくなりけりさのみはよもと思ひしものを
 我がともと君かかき吳竹は千代に幾世のかげをやとさん
 なよ竹の音に芝袖をかきつゝぬれにじこほ風さ知りぬれ
 木にもあらす草にもあらぬ竹の上のはしにわが身はなりぬへきなり

又甚々滑稽ナルモノアリ
 竹林にやふ蚊の多き處とも知らでうか〜遊ぶ生醉
 竹林ノ七賢人ヲ諷セシナルベシ

竹の子はをしやお汁のみがけりにすつかりと切る藪の仲光
 庭の雪一重に積もる若竹もやがて二重にひしやまからん

柳ならんじりせぬぞ敵の内どう折れずにくれ竹の雪
起きふしもむつかしむなるほてい竹其根から子のいかにふほけん

又松竹梅ノ三副對トシテ目出度キ事ニ用ヒラレ或ハ支那ノ梁ノ孝王竹園ノ故事ヨリ竹ノ園或ハ竹ノ園生
トテ親王皇子ノ異稱ニ用井ラ月清集ニ

吳竹の園よりうつる春の宮 かねても千代のいろは見えにき

又徒然草ニ「竹の園生のするはまで人間のたねならぬぞやんことなき」「竹の子を養ふ竹の落葉かな」ト
ハ二宮翁夜話ノ中ニ記載セルモノニシテ一言ヨリ報徳ノ主旨ヲ説破シ

成長ノ盛ナルヲ讀メルモノニ

ふし毎に千代を籠めたるいくせ竹日にく伸ぶる竹の子供等

おやくく子ほまさりけり竹の函

如上列舉シ來レバ實ニ枚舉ニ違アラザルナリ

要スルニ其竹幹ハ圓滑ナルガ中ニモ節ヲ有スルノ点ニ於テ、其枝葉風雅ナル点ニ於テ又生長ノ盛ナル点
ニ於テ將又其根ガラミ親密ナル点ニ於テ古來日本人ノ精神教育上ニ多大ノ貢獻ヲ與ヘタル事ヲ想見スル
ニ餘リアルベシ

近來泰西ノ遊客竹ノ珍奇ナルヲ喜ビ土産トシテ其盆栽ヲ持テ歸ル者多シト云フ利益一天張ニ走り無味乾
燥ナル作業法ノミヲ執ルヨリハ少シク之等ノ趣味ヲ解セン事ハ又余ノ切望スル處ナリ

第四項 貿易界ニ於ケル竹ノ位置

竹ハ我が東洋ノ特産ニシテ歐米諸國皆珍奇ヲ以テ之ヲ目シソノ工藝的性質ノ甚ダ重寶ナルヲ知ルニ及ビ
逐日其需要額ヲ増加シ明治四十年ニハ四拾貳萬壹千參百九拾貳圓ノ輸出額ヲ示シ之ヲ明治十七年頃ニ比
スレバ五拾倍餘ノ盛運ヲ見ルニ至レリ
今之ヲ輸出國別ニ記シテ需用ノ有様ヲ示サンニ

明治四十一年ノ實況

國別	價格	國別	價格
清國	一、四一七	和蘭	四、二八〇
關東州	一六、〇一四	瑞典	一九七
韓國	二二、六二二	露西亞	一〇、一〇四
香港	七、五三二	西班牙	二二
英領印度	九〇	丁抹	三二〇
英領海峽殖民地	六九	北美合衆國	一〇三、三三六
蘭領印度	一一	英領亞米利加	五、〇四三
比律賓諸島	一二七	墨西哥	三三七
露領亞細亞	一八七	秘露	九六二
英吉利	七八、七六二	濠洲	一一、二二五
佛蘭西	五八、六一六	布哇	一〇二
獨逸	六二、八一二	埃及	四

白耳義	八、二九八	其他諸國	三九
伊太利	九五一	計	三九五、八八一
壤地利匈牙利	一、五〇一		

四十年ニ比シ貳萬五千餘圓ノ減額ヲ來セシハ前年英國ノ輸出超過ニ起因スト云フ
更ニ之ヲ輸出木材茶箱用板材燐寸軸木ト比較スレバ

年次	竹	材木	材	茶箱用板	燐寸軸木
明治三十七年	二八二、五三一 ^円	二、四七二、二三八 ^円	五四九、〇五八 ^円	一九六、九三〇 ^円	
明治三十八年	二九八、七一一	四、五〇三、四一〇	四六四、七一一	一一八、四一一	
明治三十九年	三六〇、六〇六	八、四四九、六五八	六三二、六六五	一三二、二八五	
明治四十年	四二一、三九二	一二、五二六、八八二	五三一、一六〇	一六九、二八二	
明治四十一年	三九五、八八一	七、八五四、六三〇	六九三、〇九七	一七四、七二三	

竹材トシテハ上ノ如キ輸出額ヲ示シ且又竹器トシテ多額ノ輸出額ヲ有シ明治四十一年度ハ米國經濟界ノ不振ニヨリ扇子類玩具類ニ品ノミニシテモ四十年ニ比シ五拾七萬八千百拾七圓ノ減額ヲ來セシモ尙且次ノ如キ輸出額ヲ有ス

竹製品輸出額 (明治四十一年度)

品目 價格 品目 價格

籠	二〇九、八四一 ^円	提灯	一五八、〇九三 ^円
簾	一三七、三九八	和傘	八五、五九五
行李及鞆	三八七、一一一	傘柄及傘手	一〇一、三五〇
杖	三四、九九二	ランプ台及ランプ笠	五七一、四二〇
爐屏	三八、八八八	玩具	七八九、八一九
扇子及團扇	八三三、四四二	其他	九七、七八一

合計 參百四拾四萬五千七百參拾圓
之ニ竹材ヲ加ヘ

總計 參百八拾四萬千六百拾壹圓

各國駐在本邦領事館ノ報告ヲ見レバ一般ニ意匠陳腐ニシテ且粗製品多ク實用ニ適セサルモノハ色澤ノ褪
ムル等ノ爲反リテ竹材ニテ購入シ精巧ナル彼等ノ技能ヲ以テ嶄新ナル意匠ヲ施サントスルノ傾向ヲ有ス
ルト云ヘリ斯業界ニ身ヲ置クモノ更ニ一段ノ努力ヲ要セズシテ可ナランヤ
次ニ竹材貿易商長田大介氏ノ取扱ニカ、ル竹材ノ價格表及各國竹器ニ關スル關稅率ヲ表示シ參考ニ資ス

P R I C E L I S T
OF PATENTED CASSERCHED BAMBOOS
D. N A G A T A.
H I O G O. J A P A N

Diameter.	Description	Do.	Do.	Quantity of one Bale	Approximate Measurement for A Bale	Packing Expenses of one Bale			
Inch.	Nos.13.14	Nos.1.10. 11.12.	Nos.2.3.4. 5.6.7.8.9.						
Length 6ft ¹ / ₂ Price 100 Pieces									
$\frac{3}{8}$ — $\frac{1}{2}$	y.	1.60	y.	1.30	y.	1.20	800	16	0.45
$\frac{1}{2}$ — $\frac{3}{4}$		1.81		1.45		1.35	600	17	0.45
$\frac{3}{4}$ —1		2.57		2.15		2.05	400	18	0.45
1—1 $\frac{1}{4}$		3.28		2.80		2.68	300	18	0.45
1 $\frac{1}{4}$ —1 $\frac{1}{2}$		4.48		3.85		3.70	200	18	0.45
1 $\frac{1}{2}$ —1 $\frac{3}{4}$		5.80		5.00		4.80	150	18	0.45
1 $\frac{3}{4}$ —2		7.80		6.65		6.30	100	18	0.45
2—2 $\frac{1}{4}$		12.45		10.65		10.30	75	18	0.45
2 $\frac{1}{4}$ —2 $\frac{1}{2}$		18.70		16.20		15.60	60	18	0.45
2 $\frac{1}{2}$ —2 $\frac{3}{4}$		27.60		24.00		23.00	40	18	0.45
With root Length 3ft 10 in Price Per 100 Pes									
$\frac{3}{8}$ — $\frac{1}{2}$		1.30		1.14		1.10	1500	18	0.45
$\frac{1}{2}$ — $\frac{5}{8}$		1.84		1.65		1.60	1200	18	0.45
$\frac{5}{8}$ — $\frac{3}{4}$		2.10		1.90		1.82	750	18	0.45
$\frac{3}{4}$ — $\frac{7}{8}$		2.57		2.32		2.25	500	18	0.45
$\frac{7}{8}$ —1		3.22		2.98		2.91	400	18	0.45
1—1 $\frac{1}{4}$		3.80		3.50		3.43	250	18	0.45
1 $\frac{1}{4}$ —1 $\frac{1}{2}$		4.90		4.52		4.43	200	18	0.45
1 $\frac{1}{2}$ —1 $\frac{3}{4}$		6.32		5.75		5.72	150	18	0.45

P R I C E L I S T O F B A M B O O S

Description	SIZE. S.		price per 100 pieces	Quantity of one Bale	Approximate measurement of A Bale
	Length ft. in	Diameter inch			
Black Bamboo (firstqual.)	3—10	$\frac{3}{8}$ — $\frac{1}{2}$	1.00	2.000	16
do	"	$\frac{1}{2}$ — $\frac{5}{8}$	1.50	1.500	16
do	"	$\frac{5}{8}$ — $\frac{3}{4}$	2.50	1.000	15
do	"	$\frac{3}{4}$ — $\frac{7}{8}$	3.00	.500	13
do	8—8	$\frac{5}{8}$ — $\frac{3}{4}$	3.00	.600	18
do	"	$\frac{3}{4}$ — $\frac{7}{8}$	5.00	.400	18
do	"	$\frac{7}{8}$ —1	6.50	.300	16
do	"	1—1 $\frac{1}{8}$	8.00	.200	16
do	"	1 $\frac{1}{8}$ —1 $\frac{1}{4}$	9.50	.200	18
do	"	1 $\frac{1}{4}$ —1 $\frac{1}{2}$	12.00	.150	18
do	"	1 $\frac{1}{2}$ —1 $\frac{3}{4}$	15.00	.100	18
do	6—6	$\frac{1}{2}$ — $\frac{3}{4}$	2.50	.500	12
do	"	$\frac{3}{4}$ —1	4.00	.300	14
do	"	1—1 $\frac{1}{4}$	7.00	.200	14
do	"	1 $\frac{1}{4}$ —1 $\frac{1}{2}$	11.00	.150	14
do	"	1 $\frac{1}{2}$ —1 $\frac{3}{4}$	13.00	.100	14
do	"	1 $\frac{3}{4}$ —2	15.00	.080	14
do	"	2—2 $\frac{1}{2}$	18.00	.050	14
do	"	2 $\frac{1}{2}$ —3	15.00	.030	14
Black Bamboo with root	3—10	$\frac{3}{8}$ — $\frac{1}{2}$	1.50	1.500	17
do	"	$\frac{1}{2}$ — $\frac{5}{8}$	2.50	1.000	18
do	"	$\frac{5}{8}$ — $\frac{3}{4}$	3.50	.700	18
do	"	$\frac{3}{4}$ — $\frac{15}{16}$	5.00	.500	18
do	6—6	$\frac{3}{4}$ — $\frac{7}{8}$	6.00	.250	18
do	"	$\frac{3}{4}$ —1	7.00	.200	18
do	"	1—1 $\frac{1}{4}$	9.00	.160	18
do	"	1 $\frac{1}{4}$ —1 $\frac{1}{2}$	15.00	.120	18
do	"	1 $\frac{1}{2}$ —1 $\frac{3}{4}$	16.00	.080	18

第 二 表						
國 名	品 名		單 位	國 定 稅 率	協 定 稅 率	
	大藏省編纂外國貿易年表ニヨリ分類	税法 番號				國税法ニヨル分類
獨 乙	紙張扇子及團扇	532	紙張扇子及團扇	Kilo 100	200.00	
<small>(備考) 風袋込ニテ輸入税ヲ課スル場合ハ次ノ如シ 1. 關稅定率表ニ風袋込ト日誌ナル場合 2. 百基ニ付輸入税六マルクヲ超ヘザル物品ニ關スル場合 其他ノ場合ニハ風袋ヲ除キテ輸入税ヲ課スルモノトス</small>						
佛 蘭 西	扇子及團扇 (紙張、絹張)	693	扇子及ビ團扇 1. 紙張但木骨製 2. 絹張又ハ羽毛製但木骨製 3. 絹張又ハ紙張但象牙、謄甲又眞朱殼骨製ニ限ル	Nw 100 100 100	350.00 500.00 2.500.00	300.00 400.00 2.000.00
ス イ ペ ン	扇子及團扇		扇子及團扇		第一稅率	第二稅率
		649	1. 紙張但木骨又ハ竹骨	Nw 1 kilo	10.00	6.00
		650	2. 絹張但 同	1	15.00	10.00
		651	3. 紙張但 角骨	1	12.00	8.00
		652	4. 絹張但 同	1	20.00	15.00
<small>(注意) 扇子及團扇ニ付テ第二稅率適用ヲウケンニハ原産地及證明書ヲ要スルモノトス</small>						
清 國			清國ト日本其他埃、白、英、和、西トノ間ニ明治三十五年締結セル上海協定稅目ニヨル分類			
			扇 1. 紙張及綿布張各種 2. 絹 張	千 個		1.400 從價五分

第 一 表					
國 名	品 名		國 定 稅 率	協 定 稅 率	
	大藏省編纂外國貿易年表ニヨル分類	税法 番號			關稅法ニヨル分類
英 國	行李及靴材 竹 屏風(絹布張其他 綿布張)			無稅 同上 同上	
北 米 合 衆 國	竹 材 製 籠 扇 子 及 團 扇 家 具 玩 具	700 427 208 418	Bamboo 扇子及團扇 House or Cabinet furnished of wood wholly or Partly Finished 翫具但シ別號ニ掲ケザルモノ	Enee 從價二割 從價五割 從價三割五分 從價三割五分	
濠 太 刺 利	竹 製 籠	:84	Baskets. Viz fancy travelling picnic. Baskets, Viz Workmens of rush and Strow.	從價三割五分	
英 領 印 度	竹 製 簾	304	Blinds.	從價四割五分	
	傘柄及傘手		Sticks for umbrellas	課 稅 基 礎 定 價 格 稅 率 從 價 五 分	

明治四十一年六月七月外務省通商局調査

本邦關稅定率法

番號	品名	單位	稅率
五三六	直尺、曲尺、卷尺等ノ木製金屬布帛製以外ノモノ	從價	二割
六一〇	竹	從價	二割
六一二	櫻櫚竹	每百斤	一圓五拾錢
六二四	傘柄、杖、鞭及其手	從價	五割
	一、貴金屬、貴金屬ヲ鑲メタル金屬貴石、半貴石、眞珠、珊瑚象牙又ハ鼈甲ヲ用ヒタルモノ	從價	四割
	二、其他	從價	四割
六二五	傘	從價	五割
	一、絹製又ハ絹入レノモノ	從價	四割
	二、其他	從價	四割
六四一	靴具	從價	五割

上表ハ明治四十三年四月十四日法律第五十四號ヲ以テ發布セラレタルモノナリ

歐露關稅率 (明治四十二年九月莫斯科帝國領事館報告)

水口細工

- 一、一箇ノ重量「フント」以上ノモノハ一布度ニ付四十五留
- 二、一箇ノ重量「フント」以下ノモノハ一布度ニ付一留八十哥

竹細工

- 一、一箇ノ重量「フント」ノモノハ一布度ニ付二十七留
- 二、一箇ノ重量「フント」以上ノモノハ一布度ニ付九留

傘類

- 一、紙張ハ紙製品トシテ一布度ニ付十四留五十哥
- 二、絹張ニ絹ノ刺繡アルモノハ一本ニ付四留
- 三、木綿張ニ絹ノ刺繡アルモノハ一本ニ付二留

紙製品(豆提燈、提燈、洋燈笠、洋燈)

- 一 布度ニ付十四留五十哥

甲種雜貨

- 一「フント」ニ付七十哥

乙種雜貨

- 一「フント」ニ付七十哥

備考

露國關稅率ハ從量主義ナリ

重量一布度ハ本邦四貫三百六十匁「フント」ハ百〇九匁

價格一哥「ゴ」〇五錢 一留一圓〇四錢

而シテ竹材ガ海外各國ニ於テ一般ニ諸道具ノ柄及果樹園其他ノ棚支柱等ニ利用セラル、ニ至レバ其需用額ハ莫大ナルモノニシテ假リニ北米ノミニ於テスラ從來使用セシ筈ノ柄ヲ竹材ヲ以テ代用スルニ至レバ

毎年四千萬本位ヲ要スベク今日六七尺ノ竹ノ柄ハ運賃ヲ見積リ一本ニ付貳錢五厘ニ輸出シ得ベク之ガ彼地ニ於テ四錢ニ賣却スルヲ得可シト然ラバ一本ニ付壹錢五厘ノ收益アリ之ガ總額六拾萬圓ノ利益ヲ得ベキナリ豈忽諸ニ付スベキノ事業ナランヤ、サレバ米國ニ於テモ之等ノ必要ヲ悟リ坪井翁ニ教ヲ乞ヒ此經營ヲ劃策シツ、アリ

先年米人ウイルアム、ヒルス氏我が國ニ來リ十八閱月ヲ竹林栽培ノ研究ニ費シ歸途我が竹及支那ヨリ五萬圓ノ竹苗ヲ持歸リ「アリゾナ州」ニ一大竹林ノ經營ヲ企テタルヲ聞ケリ而シテ又一獨乙人ハ孟宗筍ヲ評シテ曰ク「凡百ノ蔬菜中孟宗筍ノ右ニ出ツルモノナシ」ト筍ノ風味彼等ガ嗜好ニ適スル如斯

齒にかゝる寒筍の風味かな

幹 雄

嗚呼竹林前途多望ナル哉
退ヒテ我竹林經營ノ方法如何ニト見レバ粗放モ實ニ甚シク京都地方ヲ除キテハ殆ソド周約的作業ヲ營ムヲ聞カズ

保護増殖ニ意ヲ用ザルノ結果ハ年々歳々供給ニ逼迫ヲツケ一方病害ノ瀰漫ハ材料ノ枯損ヲ來シ竹材貿易商ハ前途ニ悲觀ヲ抱キ當局ニ向ヒ輸出竹材ニ關シ意見書ヲ提出シ又坪井翁ハ病害ニ關スル建白書ヲ提出スルニ至レリ民間ヨリ如斯刺撃ヲ蒙リタル當局人稍々覺醒ノ姿ナレドモ未ダ一般人士ハ竹林ノ利益ヲ知ラザルモノ、如ク病虫害ノ如キ棄テ、省ミズ余故郷ニ於テ蔓自然枯蔓延ノ結果全數殆ソド枯死ニ類セルヲ見タリカクシテ竹林ハ利益ナキモノナリトテ之ヲ拋棄スルニ致リテハ兒戲ニモ及バズト云フベシ

第三節 今日如何ナル竹ヲ栽培ス可キカ

和漢三才圖繪ニ曰ク「凡竹譜所謂竹六十一種不悉載之而入藥惟用藥、篔竹、淡竹、苦竹三種」近年又數種ノ

發見アリシヲ以テ七十種内外ヲ數フルヲ得ベシ今觀賞用種ハ暫ラク措キ經濟上ヨリ云フ時ハ淡竹、苦竹、三才圖會ニ見ル如ク古エヨリ重要視セラレ近時之ニ黒竹及孟宗竹ヲ加ヘテ竹林界ノ四天王ト稱セラル勿論之等ノ種類ノ増殖ヲ謀ルハ望マシキ事ニシテ前述ノ表ニヨリ見レバ苦竹ノ收利ハ其最タルモノナレドモ余ハ特ニ淡竹ノ増殖ヲ希望スルモノナリ何トナレバ淡竹ハ明治二十七年頃ヨリ開花ノ爲殆ソド其跡ヲ滅セントス

而シテ此開花ノ現象ハ記錄ノ示ス所ニヨレバ苦竹ニ於テモ百數十年ノ間ニ於テ一回ハ之ヲ見ルモノニシテ今ヤ苦竹ノ開花後將ニ數十年ヲ經過ス、開花ノ原因ニシテ未ダ明確ヲ缺クヲ以テ必ズヤ近キ將來ニ於テ自然枯ノ發生ヲ見ル可シト確言スル能ハズト雖モ而モ之ガ發生ヲ見ルモノトシテノ覺悟ハ刻下ノ急務ナリトス而モ苦竹ノ開花ハ急速ニ大面積ニ發作スルモノナルヲ以テ現時ハ十%ヲ占有スル苦竹林ガ全滅ヲ來シタル場合ニ於テ如何ニス可キカ之憂慮スベキ大問題ニ非ズヤ

是ヲ以テ余ハ微々トシテ死セルガ如キ淡竹林ノ回復ヲ絶叫シ一旦緩急アル場合ニ際シ動かザル事泰山ノ如キ基礎ノ築カレン事ヲ熱望スルモノナリ

此處ニ又竹林界ニ一大福音ハ來ラントス、コハ即チ坪井翁ニヨリ目下試作セラレツアル伊豫竹、及支那竹、ノ造林ナリ試作中ノ事ナレバ今此處ニ確タル收支計算ノ成績ヲ述ブル能ハズト雖モ翁ノ言ニヨレバ少シク周約ニ行フニ當リテハ一反步貳百圓ノ粗收入ヲ舉グルヲ得可シト特ニ前者ハ伊豫ノ石槌山等ノ寒地ニ生ズルモノナレバ高山ノ頂ノ如キ寒氣強ク且風力強キ處ニ於テ林木ノ生長不良ニシテ雜草ノ占有スル處等ニ於テ土砂扞止ノ傍ヲ反當リ貳百圓迄ハ舉ラズトモ多少ノ收益ヲ見ルヲ得ルニ至レバ儘ニ施設案編成ノ上ニ一革新ヲ與フベキナリ

此ノ二種ノ竹ハ今春本校ニ寄贈セラル、襟翁ニ願ヒ置キシヲ以テ諸先生ノ親シク研究ノ結果江湖ヲ裨益セラレン事ヲ切望ス

第二章 本論

第一節 生理的危害

第一項 竹之開花自然枯

植物界一般ノ通則トシテ其生殖機關ノ生成ニハ甚多クノ營養料ヲ要スルモノニシテ之ガ爲メ著シキ貯藏物質ノ消耗ヲ未シ枯死凋落スルモノ多シ禾本科ノ植物ハ一般ニ其開花結實ト共ニ枯死スルモノニシテ之竹ノ開花ガ竹林經營ニ一大恐慌ヲ來ス所以ナリ

竹ノ開花ハ記錄ノ示ス所ニヨレバ數十年乃至百數十年ニシテ一度此現象ヲ見ルモノ、如ク甚ダ奇異ノ感アレバ又リウセつらん、みのばやし等ニ於テ普通ニ見ル現象ナリ

仰モ自然枯ナル名稱ハすゞ竹等ノ自然變ヨリ轉化セルモノナリト云ヒ又自然ニ枯ルヲ以テ自然枯ト云ヒ或ハ一度之ニカ、レバ回復二十年位ヲ要スル故十年枯ヨリ轉化セルモノナリト云ヒ鬼ニ角之ハ古クヨリ世ニ知ラレタルモノニシテ大和本草ニ曰ク

竹實、國俗自然變ト云フ或ハ曰ク阿含經ニイヘル劫初自然變米ニナソラヘテ云ヘルニヤ竹實ナルハ竹疫ナリ凶年ノ兆シナリ竹實生ズレバ竹必ズ枯ル云々
又和漢三才圖繪ニ曰ク

本綱今竹間時見、開花、小白如、東東花、亦結實如、小麥子、無氣味、而瀟、可爲飯食、謂之竹米、以爲荒年兆、其竹即死、必非鸞鳳所食者

一種有生、苦竹枝上者大如鷄子、竹葉層々包之、其味甘勝、密有大毒、須以灰汁煮、一度煉訖乃茹食、煉不熟則噉人喉、出血手爪盡脫也、是此一物恐與竹米之竹實不同

古今醫統云、竹年則生米而生、初見一根生米則截去上梢、近地三尺通去、節灌入犬糞、則餘竹不生、米也按草實有自然殺者、如麥也竹實相似之、故俗名自然殺乎、天和壬戌之春紀州熊野及吉野山中竹多結實其竹高不過四五尺、枝細而皆小篠其實如子麥、一房數十顆、山人每家收數十斛、以爲食餌、至翌年春夏然大資、荒年飢而後五穀豐饒米粟價減、半予亦直見之、然則荒年極當爲豐年之時出乎

我國本草學者ノ意志那邊ニ存スルカヲ知ルベク中ニハ抱腹スベキ事アレバ又中ニハ考慮ヲ要ス可キモノアリ灌入犬糞、則餘竹不生、米、杯面白キ言ニ非ズヤ、今日此回復策トシテ人糞尿等ヲ施用スル起源ナル可シ

此源因ニ關シテハ未ダ學理上ヨリ説明サレタルモノナク或ハ回歸年度ヲ以テ發作スルテウ年代説アリ或ハ氣候説ヲ唱フルモノアリ又ハ肥料不足ニ起因スト云フモノアリ思フニ毎年充分ノ施肥ヲナセル肥沃地ニモ發生シ或ハ新植后數年ヲ出デズシテ之ガ開花ヲ見ルヲ以テ其源因タルヤ甚ダ複雑ナル關聯アルヲ知ル可キナリ故ニ此處ニ一般植物ガ生殖機關ヲ發生スル誘因ニ就キテ其主ナルモノヲ擧ゲテ參考ニ資ス

(一) 營養物質ノ不足

是農作物ニ應用セラル、原則ナレバコ、ニ多言ヲ要セザル可シ

(二) 溫熱ノ增加

過度ノ溫度ハ反リテ花芽ノ發生ヲ妨止スルコトハうつこんこう、ひやしんどろ、さふらん等ノ開花ニ於テ急激ナル溫度ノ上昇ハ花芽ノ發生ヲ停止スルニ於テ見ルベキモ高山ニ於ケル所謂御花園ニ於テ夏季ニ至リ一時百花咲乱レ、又暖地ハ寒地ニ比シテ美花多ク、或ハ又嚴寒尙溫室內ニ美花ノ爛熳タル等ヲ見テ如何ニ開花ニ當リ溫熱ノ必要ナルカヲ知ルニ足ル可シ

(三) 水濕ノ減少

一般ノ上ヨリ謂フ時ハ植物ノ生長ニハ多量ノ水濕ヲ要スルモノニシテ充分ニ濕氣ヲ保有セル土地ニ生ズ

ル植物ハ乾燥シタル土地ニ生ズルモノニ比シテ生長旺盛ニシテ永ク乾地ニ生ズルモノハ充分ノ發育ヲナス能ハズシテ所謂矮態 (Dwarfed) ナル現象ヲ呈スルニ至ル可シコ、ニ於テ技葉發育ト生殖器官發生トノ間ニ於ケル交互作用ノ結果乾地ノモノニ花芽ノ發生多キハ明カナル事實ナリ

(四) 過多ノ陽光

一般ニ陰處ハ陽處ヨリモ生長速カナルモノニシテ所謂成長ノ日期 (Daily period of Growth) 即チ成長ハ夜半ノ後ニ於テ其最高限ヲ示シ正午ノ后ニ最低限ニ達スルヲ見テ知ル可シ又ケルナル、フホンマリラウン氏ノ實驗ニヨレバ夏季種々ノ植物ヲトリ一側ニ日光ヲ當テ他側面ハ暗黒トナシタルニ日光ヲ與ラレシ半側面ニ多クノ開花ヲ見暗黒面ニハ主トシテ葉芽ノ發生ヲ見タリト云フ

之等ノ事實ヨリ開花ニ陽光ノ必要ナル事ハ明カナレドモ然ラバスペクトル中如何ナル部分ヲ必要トスルカト云ハバコ、ニサツクス氏ノ研究アリ

即チ青半部ノ光線ハ晝ト同作用ヲナシ赤半部ノ光線ハ夜ト同作用ヲナスト云フニアリ然レドモ近時クレープス氏及其他ノ學者ノ實驗ノ結果未ダコ、ニ結論スル能ハザルナリト

大略以上ノ如ク外界ノ狀況ガ開花ニ至大ノ影響ヲ及ボスモ甲植物ノ實驗ハ直ニ乙植物ニ適用スルヲ得ズ又之等ノ原因ハ單獨ニ働カズシテ數種相連關錯雜ニシテ起ルモノナレバ注意ヲ要スベキ事項ナリ

一、内生菌根ト自然枯トノ關係

健全ナル淡竹ノ支根ヲ主軸ニ平行シテ薄キ從斷截片ヲ作り之ヲ六百倍内外ノ顯微鏡下ニ窺ヘバ周緣細胞直下ノ皮層細胞内ニ大腸狀ノ菌糸ノ充實セルヲ見ルベシ之即チ内生共生菌ナリ我國ニ於テ未ダ此發育經過ニ關シ詳細ナル調査アルヲ聞カズ余ハ少シク之ガ顯微鏡的實驗ヲナセシモ淺學短才加フルニ設備ノ不完全時間ノ制限等ノ爲諸方面ニ渡リテ實驗スルヲ得ズ從ヒテ如何ナル發育經過ヲナスヤ、或ハ如何ナル作用ヲ竹ニ及ボスヤ等ニ就キテ詳述スル能ハサルモ只之ガ自然枯ニ對シ如何ニ變遷スルヤヲ少シク述べ

ントス

先ヅ第一ブレバライトニ見ル如ク健全ナルモノ、支根皮層細胞ニアリテハ一細胞ヨリ他細胞ニ貫通シテ盛ニ菌糸發育シ殆ンド細胞内ニ充實スルガ如ク而シテ又所々ニ囊狀態ノ形成セラル、ヲ見ルベシ次ニ將ニ開花ヲ始メントシ枝上二三ノ花ヲ見ルモノニアリテハ著シク該菌糸ノ減少ヲ來シ所ニヨリテハクソノ存在ヲ見サル所アリ又時ニヨリテハ菌糸黃色ヲ呈スルモノアリ之或ハ其死因ニヨルナランカ又囊全狀体ヲ見ルハ前ニ異ラズ又基本組織内ニ於ケル貯藏澱粉粒ノ著シク消費セラレタルハブレバライトニヨリテ知ル可シ

開花後半年以上モ經過シ葉片殆ンド脱落シタレバ猶竹幹黃綠色ヲ呈スルモノニアリテハ如何ナル部分ヲ檢スルモ該菌ノ存在ヲ認メズ又基本系内ノ澱粉粒ハ殆ンド見ルヲ得ズ

又今將ニ回復セントスル竹叢中ヨリトリテ之ヲ見レバ各所ニ該菌系ノ蔓延スルヲ見ルベシ

該菌系ハフクシンヲ以テ紅色ニ染色スルヲ得ベクメチレン青ニヨリ青色ニ着色スルヲ得ルモ前者ヨリ稍難シ

大サニ關シ實例ノ結果巾〇、〇〇〇三三耗ヲ得タレバ長サハ錯雜スルヲ以テ知ルニ由ナシ

以上ノ關係ヨリ見バ共生菌ノ存亡ト自然枯トハ何レガ因何レガ果ヲ未ダ結論ヲ下スヲ得ザレドモ何レニシテモ淡竹林ノ隆替ハ此共生菌ノ興廢ト密接ノ關聯ヲ有スル事ハ確言スルニ憚ラザルナリ、今若シ共生菌ノ死滅ガ開花ノ原因ヲナストセバ其共生菌ヲ有セザル苦竹ニ於テ又説明ニ苦ム所以ナリ

江湖大少ノ諸士宜シク之ガ發育狀態ヲ究メ淡竹林ト如何ナル關係ヲ有スルヤヲ明カニシ延ヒテ我ガ竹林界ニ於テ最モ恐懼ヲ以テ目セラル、自然枯ノ救濟策ニ一大光明ヲ與ヘラレン事ヲ熱望シテ止マザルナリ

二、救濟策

上述ノ如ク其原因ニシテ未ダ闡明セラレサルヲ以テ之ガ根本的豫防救濟ノ方法發見サレザルハ大ニ遺憾

トスル處ナリ然レモ一般植物ノ開花ヲ促進スル原則ヨリ推論シテ以下少シク之ヲ述ベントス
 常ニ肥沃ナラシムル事適度ノ鬱閉ヲ保タシムル事、又過度ノ陰濕及過度ノ乾燥ハ共ニナカラシムル事ハ
 必要ナル事項ニシテ又將ニ開花セントスルヤ其葉片ハ黃色ヲ呈シ之ガ若シ淡竹ノ如キ共生菌ヲ有スルモ
 ノナル時ハ其根部ヲ檢スレバ談菌ノ著シキ減少ヲ來スモノナレバ、モシ其自然枯ノ徵候タルヲ確認スル
 上ハ速ニ伐採スベシ、カクスレバ其竹材ハ普通價格ヲ以テ賣却スルヲ得ベシ
 又ツノ跡地ハ根株ノ發掘ヲナシ堆肥人糞尿ノ如キ肥料ヲ施シ新タニ竹林ヲ仕立ツルカ或ハ皆伐跡地ハツ
 ノマ、ニシテ之ニ充分ニ前述ノ肥料ヲ施ス時ハ數年ニシテ回復スルヲ得ベシ
 此回復試驗ニ關シテハ曩ニ大阪大林區署ハ京都ノ山科ニ於テ失敗シ又京都府モ此試驗ヲナシツ、アルモ
 未ダ確タル成績ヲ發表スル能ハズ獨リ坪井翁ハ淡竹班竹ニ就キ此試驗ヲ遂行シ其成績見ルベキモノアリ
 淡竹ハ之ヲ施肥區無施肥區放任區ニ分チ施肥區ハ堆肥人糞尿ヲ施用シタルモノニシテ被害後四年ニシテ徑
 一寸位ノモノヲ叢生スルニ至リ無施肥區ハ除草其他ノ手入ヲナスモ肥料ヲ施サバ爾モノニシテ稍前者ヨリ
 劣リ放任區ハ雜草灌木等ヲ自然ニ放任シタルモノニシテ結果甚ダ不良ニシテ此處彼處ニ點生スルニ過ギ
 ズ

第二節 植物ノ危害

植物ノ危害ハ細胞内ニ侵入シ其養料ヲ攝取シ爲メニ病害ヲ惹起スルモノアリ或ハ土地養料ヲ奮フモノア

リ或ハ陽光ヲ遮斷シ或ハ土壤ヲ結束シテ地下莖ノ發育ヲ阻害スルモノ等アリ之ヲ隱花植物ノ害及顯花植
 物ノ害ノ二ツニ分チ以下之ヲ略述スベシ

第一項 隱花植物ノ危害

未ダ幼稚ナル我が竹林業ハ之等下等植物ニ對シ充分ナル研究ナク從ヒテ其病原ノ不明ナルモノ多ク驅除
 豫防ノ充分ナルモノナシ

一、蔓自然枯

春日仲淵氏ハ之ヲ天狗巢病ト云ヒ坪井翁ハ雀巢病ト云フ竹林界ノ霸王タル苦竹ニ發生スルモノニシテ現
 時其危害區域ハ全國ニ渡リ開花ニ次ギテ恐ルベキモノナリ最近農學士三宅市郎氏ニヨリ黑穗菌族ノ
Aecidiosporium Take. gen. no. Sp. nov. ナメト証セシメタリ

鬱閉ノ破レタル處及竹林ノ外圍特ニ萬年垣等ニ寄生スル事多ク病狀ハ細枝ヲ密生シ房狀ヲ呈ス
 被害竹ノ病枝ヲ檢スレバ主トシテ節ノ部分ニ暗黒色ノ胞子ノ密着セルヲ見ルベク此胞子發芽スレバ前菌
 糸ヲ生シ前菌糸ハ分生胞子ヲ生シ之ガ健全部ニ寄生ノ細胞内ニ侵入シ前記ノ經過ヲ繰返スモノナリ胞子
 ノ形狀ハ「アレバラー」ニテ見ル如ク其大ハ昨年十月二十三日實測ニ依レバ黒色胞子ニアリテハ長經
 ○、〇〇九短經〇〇〇六六耗ノ楕圓體ナリ（分生胞子ハ材料ヲ得ル能ハザリシヲ以テ不明）其驅除法ト
 シテハ^{30%}「ホルトウ液」ヲ以テ驅除スルヲ得ベキモ如斯ハ實際行フ能ハザルヲ以テ事情ノユルスカギリ
 萬年垣ヲ作ラヌ様ニナシ被害ノ初期ノモノハ其被害枝ヲ除去シ之ヲ燒棄テ甚シク蔓延シタルモノハ竹幹
 共ニ伐採スベシ分生胞子ノ飛散スルハ春季ナルヲ以テ冬季間内ニ伐採スベシ

二、節自然枯

特種ナル銹菌ノ一種
Sirteoa troum. Coriidoies. Mugnura. ノ寄生ニヨルモノニシテ苦竹ニ多ク冬季地上一二尺ノ處ニ赤黃色ノ

冬孢子ノ塊ヲ生シ漸時節ヲ傳ハリテ上方ニ蔓延シ四五月ノ頃ニ猖獗ヲ極ムルモノニシテ竹幹及鞭根内ニ菌糸ヲ蔓延ス

古クヨリ知ラレタル病氣ニシテ大和本草ニ曰ク

竹^{スズメノイヒ}ノ液ノカタマリテ色黄ニナリタルナリ竹ニ付テ生ズ小兒トリテ食ス甘ク香ハシ時珍白狀如木紅色本草拾遺竹内ト云フ苦竹肉大毒アリ小兒食シテ死スル事アリト

蓋シ之節自然枯ノ謂ニシテ其他尙異名多ク「スズメノタマゴ」、「スズメノマ」、「スズメノモチ」、シニ等ノ名アリ堀農學士ハ其形狀ヨリ赤衣ト命名セリ

冬孢子發芽スル時ハ前菌糸ヲ生シ前菌糸ハ又分生孢子ヲ生ズ此分生孢子ハ竹類ニ寄生スル事ヲ得ズ必ズ中間寄生ヲ要スレドモ未ダ此寄生ヲ發見スルヲ得ズ從ヒテ完全ナル驅除豫防ナク被害部ノ除去ニ務ムルノ外ナシ

冬孢子ノ塊ハカタリ結束シ水ニテハ解絮シカタクヲ以テ實驗ノ際ハ「キシロール」或ハ「アルコホル」ニテ解キタル后行フヲ便トス菌糸ハ「フクシン」ニテ紅色ニ着色スルヲ得レド冬孢子ハ容易ニ着色セズ比胞子ハ黄色ヲ呈シ中央ニクビレ目アリ實測ニヨレバ長經〇、〇二三一耗短經〇、〇一六五耗ヲ得タリ分生胞子ハ材料ヲ得ル能ハザリシ爲實驗ヲ欠ク

二、煤 自 然 枯

淡竹、布袋竹、黒竹等ニ多ク見ルモノニシテ一名淡竹ノ黒穗病ト稱ス獨乙人ヒーヘンニング氏ニヨリ *Ustilago sikiriana* P. Henn. ト命名セラレタリ初夏枝上ニ煤様ノ黒粉ヲ着生シ球狀菌ノ一種ニシテ麥奴ト大差ナシト云フ

四、*Macrosporium* Sp.

本病ハ明治四十一年十一月ヨリ京都府下ノ寒竹林ニ始メテ發生シタルモノニシテ山林局囑託川村清一氏

ノ調査報告ヲ抄出スレバ下ノ如シ先ヅ地下莖ニ就キテ顯微鏡的截片ヲ製シテ是ヲ檢スルニ多クノ菌糸存在ヲ認メ内部組織ノ被害甚シキヲ見ル次ニ地上莖ヲ取りテ同ジク内部ヲ檢スルニ尙ホ多少ノ葉綠粒ヲ殘存スル部分アリト雖モ組織全部菌糸ノ犯ス所トナレリ既ニ菌糸ヲ認メタレバ本害菌ハ細菌ノ種類ニ非ズシテ所謂高等ナル菌類ニ屬スベキヲ知ルモ内部ニハ菌糸以外分類ノ準據トスル所ノ生殖器官ヲ認メズ更ニ外部表皮面釋ニ就キテ檢スルニ果シテ地上莖ノ上部節ノ直下釋ニテ被レタル表皮面ニ多數ノ胞子ヲ形成スルヲ認メタリ胞子ハ黒褐色ニシテ縱横ニ隔壁アリテ數胞ニ區割セラレ全形ハ租櫛圓シテ其發芽シツ、アルモノニアリテハ恰モ德利狀ヲ呈セリ此特異ナル胞子ノ形態ハ「テマチア」菌科ノ菌類ニシテ其連鎖狀ナラザルノ点ヨリ本菌ハ正ニ不完全菌類 (*Fungi imperfecti*)

「テマチア」 (*Dematiaceae*)

巨菌胞子屬 (*Macrosporium*) ノ菌ナル事ヲ鑑定シ得ルナリ今本屬ノ菌類ニシテ本邦ニ産シ各種ノ植物ニ害ヲ與フル事ノ知ラレタルモノハ七種アレバ本屬ノ菌ニシテ竹類ヲ侵シタルモノアルヲ聞カズ殊ニ寒竹ノ如キ未ダ病菌ニ就キテ多ク知ラレザルモノナレバ本標品ニ依リテ始メテ寒竹ノ激烈ナル害菌ノ存在ヲ知ルコトヲ得本邦菌類學上新ラシキ項目ヲ附加スル事ヲ得タリ

次ニ更ニ本菌ノ種名ニ就キテ檢セントスルニ本菌ハ不完全菌類ニ屬スルガ故ニ擔子菌ニ於ケル擔子柄或ハ子囊菌ニ於ケル子囊線狀體等ノ形成一ツモ分明ナラズ唯僅カニ菌糸ト胞子トヲ知ルモノニシテ天然ノ状態ニ於テ他ニ何等ノ生殖器官ヲ造ラズ輒近人工純粹培養ノ法進ミ從來不完全菌類ニ屬シタルモノニシテ精巧ナル培養ノ結果生殖器官ヲ形成セシメ得テ其所屬ヲ明カニスルモノ往々アリト雖モ夫ハ俄ニ望ム可ラザル所ナレバ今本菌ニ就キテ大サ形狀ノミニヨリテ檢スルニ他ノ植物ニ寄生スル既知ノ同屬菌中相酷似スルモノアリト雖モ胞子以外ニ比較ニ準據スルモノナケレバ更ニ之等ヲ兩々相對照シテ生理的寄生的状態ノ異同ヲ試験セザレバ果シテ同種ナリヤ否ヤ俄ニ斷定シ能ハザルナレバ今本菌ニ向ツテハ

Maurosporium Sp. トシテ記載シ置クニ止ルベシ

菌糸ハ竹幹ノ表皮ヲ穿テ内部ニ侵入レ柔細胞膜、厚細胞膜ヲ論ゼズ自由ニ穿入シテ其細胞内容物ヲ攝取シ益々偉力ヲ逞フシ分岐繁殖シ地上莖ヨリ地下莖ニウツリ更ニ他ノ健全ナル地上莖ヲ侵シ遂ニ全部ニ普及シ同叢ノ竹幹ヲ盡ク枯死セシム是本菌ニハ菌糸ノ先端ヨリ特ニ強力ナル「エンチーム」ヲ侵出シ硅酸質ヲ含有セル細胞膜ヲ自由ニ溶解シ穿孔進入スル特異ノ性アルニ由ル地下莖ニアリテハ厚膜表皮ハ外觀完全ニ残存シ皮層ヲナセル柔組織ハ全部溶解消失シ内部ニアリテハ主トシテ厚膜細胞ヨリナレル維管束ハ光澤アル黄褐色ニ變ジテ残存スルモ維管束間ノ柔細胞ハ盡ク溶解セリ故ニ個々ニ分離シタル多數ノ維管束ハ表皮ニヨリテ包マレテ残存ストモ細胞内溶物質ハ生活機能ヲ失ヘリ地下莖ノ状態如斯ナルヲ以テ地上莖ハタトヘ完全ナリトスルモ地中ヨリノ養分ノ通路ヲ斷タレ自然枯死スルヲ免レズ然モ地上莖自モ地下莖ニ次テ深ク菌糸ノ胃ス所トナリテ皮層ノ内方ニ存スル環狀厚膜組織ハ黄褐色ニ變ジ柔組織ノ細胞ハ殘存スルモ完全ナル生活状態ニアル細胞ヲ認メズ是ヲ要スルニ被害ノ程度ハ最モ烈シク地上地下兩莖共ニ全部ニ涉レルモノトス

豫防法トシテハ病徴ヲ認メタル時ハ直ニ被害莖ハ勿論健全ナルモノト雖モ近接セルモノハ地下莖共ニ掘取リテ燒棄スベク又別株ニ傳染ノ恐アル時ハ如何ナル藥劑ヲ用ウベキカハ未ダ明言スル能ハズト雖「ボルドウ」合劑灌注ノ如キハ適法ナルベシ (以上)

附 水 枯 病 及 葉 枯 病

兩種共未ダ其病原ヲ明カニセザルモ便宜上コ、ニ畧説スベシ

安藤林學士ハ是ヲ同種ノ如クニ説ケリ而レドモ齋藤勝藏氏ハ兩種ニ分テリ前者ハ三月ヨリ五月頃ノ間ニ最モ盛ニシテ竹葉枯凋落シ竹幹ハ帶赤褐色ヨリ黒褐色ニ變ジ表面ニ皺曲ヲ生シ地上ヨリ約三十節位ノ間ハ每節水ヲ有ス之其名ノ起リシ所以ニシテ上部ニ於テソノ内側ニ菌糸ノ蔓延セル一節ヲ有ス後者ハ極

メテ急激ニ襲來スルモノニシテ一、二、晝夜ノ間ニ於テ葉片枯凋スルニ至ル、豫防法トシテハ何レモ適切ナルモノ發見トレズ

第二項 顯花植物ノ危害

雜草類灌木類ニ分ツラ得ベク何レモ養分ノ奪取スル事土壤ヲ結束シテ鞭根ノ繁殖ヲ阻害スル事又時ニハ被陰ヲ與フル事等ニシテ新タニ竹林ヲ仕立ツル場合自然枯回復ノ場合孟宗畑等ニ於テ著シク之ヲ感ズルモノニシテ雜草ハ時ニヨリ有益ナル事アルモ灌木類ハ絶對ニ除去セザル可ラズ

第三節 動物ノ危害

葉ヲ蚕食スルモノアリ竹幹内ニ侵入スルモノアリ筍ヲ食害スルモノアリ之ヲ分チテ昆虫之害及野獸ノ害トシ項ヲ逐ヒテ略述スベシ

第一項 昆虫之害

大害ヲ及ボスモノ少ナケルドモ既ニ知ラレタルモノヲ擧クレバ次ノ如シ

一、粟夜盜虫、鱗翅目、粟蚕蛾科

成虫ハ体長六分翅ノ開長一寸三分乃至一寸五分ニシテ前翅ハ灰黄色中央ニ一ケノ小白紋ヲ有シ所々ニ小黒紋ヲ散在ス後翅ハ灰色ニシテ光澤ヲ帶ブ幼虫ハ一寸四分ヨリ一寸七分位ニ達シ地色ハ暗綠色ニシテ腹部ハ淡色ナリ三條ノ太キ縦線ヲ有ス

年二回ノ發生ヲナシ蛾ニテ越年ス黒竹、淡竹、孟宗竹、苦竹ニ其被害ヲ見ル昆虫ノ被害中最も恐ルベキモノナリ幼虫ハ春季筍ノ發セントスルヤ上部捲葉ノ部分或ハ側面ヨリ其中ニ侵入シ之ヲ食害スルモノニシテ此害ヲ受ケタルモノハ數尺ニシテ其成長ヲ停止シ頂点ニ於ケル捲葉ハ赤褐色ヲ呈シ遂ニ枯死ス俗ニ之ヲ「トマリ」ト稱ス健全ナル筍ハ早朝巡視スル時ハ籐ノ先端ニ露ヲ結ブモ被害ヲ蒙リタルモノニアリテハ結露セザルヲ以テ明カニ之ヲ知ルヲ得ベシ驅除法トシテハ止リ筍ヲ發見シタル時ハ之ヲ抜き取り食

用ニ供シ幼虫ヲ捕殺スベシ又蛾ハ夜間飛行スルモノナレバ誘蛾燈ヲ使用スルカ或ハ誘殺法ヲ行フベシ之ニ用フル糠密ハ亞硫酸五分黑砂糖二十分ヲ酒ニ溶解シ百分トナシ之ヲ所々ノ竹幹ニ塗抹シ置クベシ又蟻及寄生蜂ハ務メテ保護スル事必要ナリ

二、叩頭虫、鞘翅目、叩頭虫科

幼虫ハ筍ノ根部ニ侵入シテ其發生ヲ停止セシム之ヲ驅除スルニハ筍ノ發生ニ先チ馬鈴薯蕪等ヲ竹林内各所ニ置キ板ニテ之ヲ蓋ヒ置ク時ハ該幼虫(針金虫)ハ此處ニ集リ來ル可ケレバ之ヲ捕殺スルニアリ

三、竹蠹蟲、鞘翅目、木蠹虫科

經過習性ハ未ダ明確ナラザルモ其幼虫ハ竹幹内ニ侵入シテ之ヲ蠹食スルモノナリ成虫ハ体長一分五厘幅八厘ニシテモ赤褐色ニシテ圓錐形ヲナシ脚及觸角ハ黑褐色ニシテ翅鞘ニハ點刻線併列ス

四、竹ノ蝨、鱗翅目、鹿子蝶科

年二回モシクハ三回ノ發生ヲナスモノニシテ五月頃發生シタルモノハ最モ其害甚ク竹ノ葉ヲ蚕食シ六月下旬ニ至レバ蛾トナリ蛹ハ竹葉數枚ヲ纏結シテ繭ヲ作ル幼虫ノ地色ハ暗黄色ヲ呈シ黑色ノ毛ヲ有シ氣門ハ黑色体ノ兩端ノ毛ハ特ニ長シ体長ハ生長ノ極度ニ於テ六七分アリ成虫ハ体長二分五厘乃至三分翅ノ開張六分乃至七分雄翅ハ淡褐ニシテ光澤ヲ有シ雌翅ハ暗黑色ナリ幼虫ハ群居スルモノナレバ捕殺容易ニシテ成虫ハ早春竹葉上ニ交尾スルモノ多ケレバ之モ捕殺ニ容易ナリ

五、苦竹ノ綠天牛、鞘翅目、天牛科

一名トラカミキリト稱シ他ノ天牛類ニ比シテ小形ニシテ灰黃綠色ノ斑紋ヲ有シ夏季苦竹ノ幹内ニ蝨入ス之ヲ認メタル時ハ伐採シテ捕殺スベシ

六、蝗蟲ノ類、直翅目、蝗虫科

此類ノ中ニテ竹林ニ危害ヲ及ボスモノハ赤脚飛蝗、黃脚飛蝗、臺灣飛蝗ノ三種ニシテ竹ノ綠葉ヲ蚕食ス

ルモノナリ形態習性大差ナク体長一寸乃至一寸八分翅ノ開張二寸五分乃至四寸ニ達ス年一回ノ發生ヲナシ卵子ニテ越年ス
驅除法トシテハ土中一寸内外ノ處ニ塊狀ヲナセル卵子ノ集リヲ採取スルカ或ハ群飛スルモノヲ追フカ又ハ捕殺スベシ

七、いちもぢせり及はなせり、鱗翅目、柑蝶科

前者ノ幼虫ハ稻ヲ主トシテ食害シ竹ヲ副トスレバ後者ノ幼虫ハ主ニ竹葉ヲ食害ス前者ノ成虫ハ体長六分乃至七分翅ノ開張一寸二分乃至一寸四分ナルモ后者ハ較ヤ小形ナリ何レモ翅ハ黑褐色ニシテ綠色ヲ帶ビ光澤アリ前翅ニ雄ハ七個雌ハ八個ノ白紋孤形ヲナシテ配列シ後翅ニハ前者ハ四個ノ白紋一列ニ横走スルモ後者ハ五個白紋散在セルヲ其異同ノ諸点トス年三四回ノ發生ヲナシ其第三回目ノ時ハ主トシテ竹葉ニ産卵スルモノナレバ稻田ニ於テ之ヲ捕殺スルヲ得策トス

附 Eriococcus graminis Mask 有吻目介殼虫科

蔓自然枯ノ被害ノ程度稍進行シタルモノ變形枝ノ葉鞘部ニ白色綿様物ニ包マレタル褐色橢圓ノ小虫ヲ認ムベシ名和昆虫研究所ニ問合セシニ右ノ學名ヲ有スル「フクロ介殼虫」ナリトノ回答ヲ得タリ未ダ竹ト該虫トノ關係ニ就キテ説明アルヲ聞カズ故ニ今コ、ニ之ガ詳細ヲ述ブル能ハズ

第二項 野 獸 ノ 危 害

其主ナルモノハ野猪兎野鼠ニシテ筍ヲ食害セラル、モノナリ野猪ニ對シテハ嚴重ナル垣ヲ以テ其害ヲ防グベク又野鼠ノ害ニ對テハ亞硫酸ヲ混セル蒿麥園子ヲ鼠ノ入り得ル大カノ竹筒ニ入レ竹林内各所ニ置クカ或ハ「チプス」菌ノ注射ヲ行事或又野鼠ノ敵獸ヲ保護スル事ニヨリテ其効ヲ奏スルヲ得ベシ
附鳥類中鳥雀等ノ害ナキニ非ルモ改メテ述ブル程ノ事ナシ

第四節 人類ノ危害ニ對スル保護

去來ガ句ニ「筍や隣島ニ惡太郎」ト云ヒ又俚諺ニモ「筍ノ隣遊ビ」トアル如ク其地下莖ノ蔓延遠キ地域迄及
 プモノナレハ是ヲ放置スル時ハ隣地ト境界不明瞭トナルニ至ル可ケルハ豫メ境界ノ設置ヲナシ他日紛擾
 フ醸サマルノ準備ナカル可ラズ且又細民ノ竊盜ニ備フル爲竹垣ヲ設クルヲ要ス然レハ竹林周圍ノ竹ヲソ
 ノマ、折リ曲ゲテ竹垣ヲ作ルハ其竹ノ勢力ヲ阻害シ延ヒテ病虫害ノ誘因トナルモノナレハナルベク之ヲ
 避クベシ又自然ニ横タハル姑息的ノ利益ノ爲メ惑ハサルハ人情ノ通性ナレドモ林業ノ如キ永遠ノ策ヲ
 立ツルモノニアリテハ殊ニ注意スベキ事柄ニシテ竹林ニ於テモ亦甚ダ必要ナルコトナリ先年輸出竹材ノ
 需用膨大シタル時ニ當リ此弊ニ墜チ入り若キ竹ヲモ盛ンニ伐出シ輸出後表面皺裂ヲ生シ爲メニ日本竹材
 ノ名聲ヲ頓ニ失墜シタル事アリ

サレバ其伐採ニ當リ蓄積額ニ對シ其伐採額ヲ酌量セザル可ラズ國有林施業案編成規定ニ「竹林ニ於ケル
 毎年ノ伐採量ハ方正蓄積ヲ推算シ之ヲ輪伐齡ニテ除シタル高ヲ標準トシ現在林相及新竹發生ノ模様ヲ參
 酌シテ」云々トアリ而シテ出番否番ト稱シ其新竹發生ノ多キ年ト少ナキ年トアルモノナレバ否番ノ年ニ
 ハ伐採額ヲ減少スルカ又ハ全ク伐採ヲ停止シ出番ノ年ニ於テ其差引ヲ付クルヲ適當ス
 輪伐齡ニ關シテハ古來「三ヲ留メ四ヲ去リ七ヲ存ズル勿レ」トアリ此理由ハ小出博士ノ比重輪ニ於テ知ル
 如ク三年生ノモノハ未ダ軟弱ナルモ四五年生ノモノニ至リテハ最モ良質ニシテ七年生ニ至レバ再比其比
 重ヲ減シ粗惡トナレハナリ是ヲ以テ見レバ其輪伐ハ四五年ヲ以テ適當トスベキナリ而シテ又殘存スベキ
 標準トシテハ反當リ苦竹ハ六百本乃至千本淡竹ハ七八百本乃至二千三百本黒竹ハ千四百五百本孟宗竹林ハ
 四百本乃至七百本孟宗烟ハ九十本乃至百本ヲ普通トス
 普通伐採ニ當リ良竹ヲ伐出シ節曲リノモノ又ハ細小ノモノヲ殘存スルガ如キ傾向ヲ有スルモノモ亦稱ス
 ベキノ方法ト云フヲ得ズ殊ニ節曲リノモノヲ殘スル最モ厭フベキ事ニシテ是レノ鞭根ヨリ發生スルモノハ
 再比節曲リモノヲ生ズルモノニシテ岐阜ノ金華山麓ノ竹林ニ於テ見ルノ現象ナリトハ坪井翁ノ實話ナリ

近年輸出向鞭根ヲ採取スルモノ多キガ如シ之モ大ニ注意ヲ要スベキ事ト云フベク其濫收ハ竹林ノ荒廢ヲ
 免ルベカラザルナリ

「筍を養ふ竹の落葉かな」ト云ヘル如ク落葉ハ其竹林ニ少カラザル營養料ヲ供給スルモノニシテソノ分析
 表ヲ見レバ更ニ明カニ此必要ヲ知ルベシ

落葉分析表(乾燥シタルモノ)の京都府農會調査

樹種	有機物	粗灰分	全窒素	加里	燐	酸
檜	八八、〇七	一一、九三	一、三二九	〇、六六二	〇、二一一	
竹	八五、〇五	一四、五九	〇、五九一	〇、八八六	〇、一五一	

有機肥料ノ補充ヲナスコソ至當ナレ落葉採取ノ如キハ以テノ外ノ事ト云フベシ

第五節 自然界ノ及ボス危害

第一項 風 害

古來竹ノ名産地ト稱セラル、嵯峨ノ地ヲ見ルニ嵐、愛宕、鞍馬連山ヲ以テ西ヨリ北ニ屏風ヲ繞ラセルガ
 如ク少シク隔ツルモ東ニハ比叡山アリテ風ヲ防グニハ注文向キニ出來上リ又、孟宗竹ノ産地トシテ有名
 ナル紀州尾鷲モ北、東、西ニ山ヲ負風ノ防グニ頗ル便ナルヲ見ル又八月ノ風ヲ竹倒シ風ト云フヲ見ルモ竹
 林ト風トハ密接ノ關係アルヲ知ル被害ノ多少ハ時季及種類ニヨリテ異ナルモノニシテ竹ノ伸長シテ未ダ
 幹ノ軟弱ナル時期ニ於テ其害最モ恐ルベク孟宗竹ハ五六月淡竹苦竹ハ七八月頃ナリ然シテ已ニ成熟シタ
 ルモノト雖モ風ノ林内ニ吹キ入ルハ甚ダ厭フ可キ事ナリ
 之ヲ豫防スルニ方法トシテハ經營ノ當初地勢ヲ選ブ事防風林ヲ造ル事杉ト混淆セシムル事ヲ適法トス杉

ト混交林ヲ仕立ツルニハ最初ニ杉ヲ植付其十四五年生頃ニ至ルニ及ビ杉ノ枝打ヲ行ヒ側方ヨリ鞭根ヲ侵入セシムルニアリ但シ十四五年ト稱スルモ杉ノ生長如何ニヨリカク斷言スル能ハズ兎ニ角竹ノ爲杉ノ壓倒サレザルヲ程度トス

第二項 雪之害

風害ト相併ビテ竹林ニ大危害ヲ與フルモノニシテ降雪少ナキ處ニテハ之ヲ搖リ落スヲ得ルモ北陸地方ノ如キ降雪多キ處ニテ到底如斯事ヲナス能ハズ敷巻法ニヨリテ其害ヲ防キツ、アリ其法ノ大要ハ拾坪位宛シ強キ繩ニテ數人ヲ以テ締メ寄セ四五尺ノ高サヨリ順次圓錐形ニ卷キ揚グルナリ坪井翁ノ話説ニヨレバ淡竹ハ若竹ヨリ雪害少ナシト一般ニ粗林ハ密林ヨリ雪害多キモノナレバ余リ粗林ニ仕立テサルヲ可トス杉ト混植スルモ此害ヲ少ナカラシムル一法ナラン

第三項 霜ノ害

筍ノ發生ニ當リ晚霜ノ襲來スル時ハ其生長ヲ阻害セラル、事アリ之ハ主ニ孟宗畑ニ現ハル、危害トス

第四項 水濕ノ害

竹材ノ成立ニハ水濕ノ必要ナル事頗ル大ナルモ過度ノ濕氣及停滯セル水濕ハ甚ダ之ヲ厭ムモノニシテ從ヒテ林地トシテハ少シク傾斜セル處ヲ可トシ若シ水平地ナレバ排水溝ヲ設クベシ惡水停滯セルガ如キ凹地ハ排水ヲ完全ニシタル後造林スルカモシクハカ、ル處ハ林地トシテ撰ハサルヲ可トス

第五項 暑熱ノ害

竹ハ元來溫暖ナル土地ニ生ズルモノナルヲ以テ暑熱ハ甚ダ必要ナルモノナレバ新植後數年ノ間、之ガ爲土地乾燥シ地力ノ減退ヲ來シ且又雜草灌木ノ生ズルニ至ル但シ雜草ハ或程度迄殘存スル事反リテ利益ナル事アレドモ灌木ハ絶對的ニ驅除スベキ事ハ前ニモ述ベタリ而レバ林縁ニ於ケル立木ハ保護樹トシテ殘ス事アリ又數草ヲナス事モ乾燥ヲ防グ良法ナリ

第三章 結論

余ハ一昨年冬木曾ヨリ中央高原ヲ踏破シ昨年ノ夏ハ規定ノ修學旅行トシテ四國ノ山川ヲ見又客臘ハ奈良和歌山、三重ノ諸縣ヲ歴遊シ我國林業ノ粹ヲ見ルヲ得タルモ是等ノ旅行ニ於テ最深ク腦髓ニ刺撃ヲ得タルモノハ森林荒廢ノ狀況ナリトス實ニ我が中央高原ヨリ十萬町歩ノ木曾御料林ヲ除カバ尙語ルニ足ルモノアリヤ甚ダ寂莫ヲ感ズベシ

東海道線ニテ近江ノ地ヲ過グレバ目ニ入ル總ベテノ巒峰ハ赤裸々タル加茂春日井ノ諸山ト相伯仲スルヲ見ルベク大坂ノ阜頭ヲ出ズレバ中國山脈ノ山骨ヲ現ハスヲ見ルベク四國ニ上陸スレバ未ダ山骨ヲ現ハスハ見サルモ亦綠滴ル美林モ容易ニ見ル能ハズ吉野川ガ年々多額ノ土砂ヲ運搬スルヲ聞キ新淀川ハ流ル、水ヨリモ沿岸ニ堆積セラレタル砂礫ノ多キヲ見史ニ春髓山脈ヲ西ニ超ヘテ瀬戸沿岸ニ至レバ川ト云フ川ハ皆砂礫ヲ以テ充カレ水ノ流ル、ヲ見ル能ハズ其森林荒廢ノ程察スベキナリ

又關西線ニテモ算盤ノ持テ相ナル森林ヲ見ルヲ得ズ歩ヲ吉野郡ニウツシ初メテ林業ノ妙味ヲ味フヲ得ベシ而シテ吉野川ヲ流下スル木材ハ年五拾萬尺、内外ト聞キ、テハ未ダ吾人ニ満足ヲ與フル能ハザルナリ何トナレバ一町歩平均生長量ヲ三十尺、トスルモ尙推定施業面積ハ壹萬六千六百六十六町歩強ニシテ若之以上ノ施業面積ヲ有スルトセバ一町歩平均生長量減少スベク之ニ北山川十津川ノ流域ヲ加算スルモ合理的施業面積ハ恐ラク三四萬町歩ヲ出デサル可ク假リニ之ヲ五萬町歩トスルモ吉野郡全山林面積拾萬町歩ニ比スレバ五割ナルニ非ズヤ林地ノ集約ヲ以テ全國ニ範ヲ示ス吉野郡モ又果シテ斯クノ如シ又「紀州ハ漁業國デ御座ル魚附林ハ必要デ御座ル」ト云フ口ニ於テ果シテ紀州海岸ニ黒ミタル處アリヤ余ハ紀州灘、熊野灘ヲ橫斷スル間ニ於テ之ヲ認ムルニ苦メリ如斯有様ニ於テ森林ヨリ多額ノ生産ヲ揚ゲ得ベキカ將タ我國ハ林業國ナリトテ誇ルニ足リ得ベキカ見ヨ我が國有林一町歩ニ對シ年粗收入僅ニ平均約拾四錢

純益五錢三厘ナルニ非スヤ又民有林ニ於テスラ町當リ年粗收入平均七圓九拾錢ト稱スルモ其實參圓ヲ出
デザルベシト

一、ニ勤儉ニ、ニ貯蓄ト盛ンニ唱導スルノ今日ニ當リ我が國林業ノ狀態斯クノ如ク數百萬町歩ノ林地
ヲ不毛ニ委ネツ、アリ之ヲ以テ克ク勤タリト云フ可キカ將又儉ノ義ヲ解シタリト云フヲ得ベキカ學而篤
ニ謂ヘル事アリ「君子務本、本立而道生」ト林業ハ我國進歩發展ノ源泉ナリ宜シク本末ノ轉倒セザラン
事ヲ期セザル可ラズ夫レ一般林業ノ有様ニ於テカクノ如シ其一因子タル竹林業モ亦此軌ヲ脱スル能ハザ
ルナリ

杉ノ吉野竹ノ京都ト相併ビテ稱セラル、如ク實ニ京都ノ竹ハ世界ノ竹ノ代表者ト云フ可ク一度足ヲ嵯峨
ニ踏メバ恍惚トシテ野々宮竹ノ美觀ニ打タル、ベシ「山城ノ竹ニ非ズ竹ノ山城」ヨト稱贊ノ辞ヲ洩スモ敢
エテ誣言ニ非ラザルヲ知ル可ク一反歩鈍收入數十圓タルヲ聞更ニ驚嘆スル所ナリソレヨリ步テ南ニ涉シ
新神足向町方面ニ至レバ美シキ孟宗畑ヲ見再ビ驚カザルヲ得ザルナリ又東部ニ遊ブモノハ山科ノ竹林ヲ
見ルヲ得ベシ如斯京都ハ四圍竹ノ生垣ヲ以テ包マレ多額ノ生産ヲ揚ゲツ、アルガ如ケレドモ其全施業面
積二千三百十五町八反九畝十六歩ヨリ生産スル年額ハ最近五ヶ年平均ニヨレバ拾四萬六千一百一圓ニシ
テ反當リ粗收入ハ六圓參拾錢ニ過ギズ(孟宗畑ヲ除キタルモノ)竹ノ山城ニ於テ未ダ如斯我國ノ總平均額
ヲ見レバ更ニ哀ナルヲ知ルベシ

尙之ヲ詳細ニ別チテ述ベントス第五回内國勸業博覽會審査報告及「ハンス、スペル」ノ分類法ニ基キ山
崎林學士ノ調査ニコレバ其利用程度ノ概算次ノ如シ

種目	金額	種目	金額
建築土木用材	貳百萬圓	園藝用材	四拾萬圓
竿類	五拾貳萬圓	小屋掛竿類	八萬圓
家具類	五拾萬圓	翫具類	五萬圓
神佛供物用具	二千五百圓	花生類	八萬圓
籠笊類	八拾萬圓	茶道具類	拾萬圓
提灯及傘類	四拾萬圓	扇子及團扇類	三十萬九千圓
樽桶類	六拾壹萬六千貳百五拾圓	雜具類	五十萬圓
輸出竹材 (三分ノ一ヲ原價トス)	拾壹萬四千五百圓	籜枝類	三十萬圓
筍	六拾五萬圓		

以上合計 七百四拾貳萬貳千貳百五拾圓
尙右ノモノハ參百萬圓以上ノ輸出額ヲ有スル竹器ノ原料ヲ加算セズ今後竹材工藝ノ進歩ハ益々其利用ノ
途ヲ擴張スベシ而ルニ其生産額ハ次表ノ如シ

項目	年度	明治四十年度	明治四十一年度
束	數	四、九九三、五七一	五、二二九、〇九二
金	額	一、八六一、〇〇二	一、九五六、九三二

右ノ結果ヲ對照スル時ハ需用ハ供給ノ四倍ナルヲ知ルベク而シテ又進ミテ止マザル世ノ文明ハ其血液トシテ紙ノ需用ヲ増加シ製紙事業ハ日ヲ逐ウテ勃興スルモ之ガ原料タル樹木ノ生長ハ此限リナキ勢ヒニ伴フ能ワズ將ニ原料ノ欠乏ヲ訴フルニ至レリ此處ニ於テ彼ノ鋒先ハ此伐期短カク且比較的少量ノ收穫ヲ得ベキ竹林界ヲ侵スニ及ベリ彼ノ三菱ハ斗六廳下ニ參萬町歩ノ竹林ヲ經營シ播州高砂ニ一大製紙場ヲ設立シ大ニ畫圖スル處アラントス我ガ竹林界ノ爲メ大ニ慶賀スベキ新事業ナルト共ニ其竹林經營ノ上ニ甚ダ注意ヲ要スベキコトナリ

又静岡縣工業、試験場枝手鈴木準太郎氏ハ熊笹ヲ以テ試験ヲナセシニ纖維柔軟而モ光澤ヲ有スル良質ノ紙ヲ製スルヲ得タリト熊笹ノ利用ハ延ヒテ我ガ林業ノ發展ヲ來スベシ故農科大學講師「ヘーフエレー」氏曾テ曰ク「日本ノ森林地ニ叢生スル熊笹ヲ絶滅スルヲ得バ日本ノ林業ハ大ニ面目ヲ改ムベシ」ト近キ將來ニ於テ一大光明ハ我ガ林業界ヲ照ラサントス

又同試験場枝手ハ竹屑ヨリ製紙原料ヲ發見セリ氏ノ法ニヨレバ純白強韌ナル上等紙ヲ製スルヲ得ベク斯業ノ發達ハ廢物利用ノ傍ラ優ニ輸入バルブヲ壓倒スルノ勢力ヲ有スベシト

最近香港及佛領東京兩地資本家ノ設立セル東京「バルブ」及紙製造會社ハ資本金百六十萬弗ヲ以テ東京地方約ク四十三方哩ヨリ産出スル竹材ヲ以テ年六千噸ノ「バルブ」ヲ製造シ事業ノ發展ト共ニ一ヶ年五萬噸ノ「バルブ」ヲ製出スル豫定ナリト我國當業者ノ宜シク刮目スベキコトト云フベシ而シテ總論ニ云ヘル如ク米國ニ於テハ將ニ竹林ノ經營ヲ企圖シツアレバ早晚彼ト競争場裡ニ立タハザル可ラザルニ至ルベシ

此時ニ當リ嘗テ吾等ノ嘗メタル綿、砂糖、樟腦ノ如キ悲運ニ遭遇セザラン事ヲ覺悟セザル可ラズ之等ガ爲ニハ宜シク竹林ノ保護増殖ニ意ヲ用井之ニ及ボス危害ヲ知悉シ驅除豫防ニ留意シ合理的經營法ニ基キ良質ニシテ而モ多額ノ材料ヲ産出セン事ヲ期セザル可ラザルナリ

嗚呼斯業ノ前途多端ナル哉

コ、ニ竹林保護テウ稿ヲ起シ贅言ヲ縷述セシ所以ナリ (完了)

砂丘と造林

愛知縣林業枝手 柿原明 十

砂丘とは湖沼河海の沿岸に生ずる飛砂の堆積物にして且つ常に運動の性質を有し農耕地に對する大敵物なり愛知縣に於ける海岸に於ては渥美半島の尖端なる中山試砲所附近に生ずるの外甚だ大なるものを認めず從て耕地に大障害を及ぼすに至らず獨り木曾川沿岸に於ては耕地に對し多少の障害あるを認め依て茲に左記項目により砂丘と造林に就き調査の結果を報告す

- (一) 砂丘の原因と成生
- (二) 島根縣の飛砂防備林
- (三) 木曾川沿岸に起る飛砂と防備の實況
- (四) 木曾川沿岸に於ける飛砂防備の方法

(一) 砂丘の原因と成生
砂丘は海岸にありては海岸が平原に連りては定期風と潮汐の満干の差異甚だしきこと、湖沼河川附

近にありては全しく一定の風向と水量の増減の差ありて其差の時間が大なるは共に砂丘成生を容易ならしむる唯一の原因なり而して右の事情により乾燥したる砂原を一定に吹き渡る風向ありとすれば海岸又は河岸の砂は内地に向つて吹送さるべし若し内地が平野にして何物も防止することなくば砂は防止物のある處迄侵入して終には大砂漠を現出せしむべし然るに其海岸或は河岸に障害物ありて之れに突き當るときは其障害物を蔽ひ盡すべし是れ即ち砂丘なり飛砂は此小岡を乗り越へて更に内地に進入すべし若し單に飛砂のみを防止するの目的を以て飛砂の進行する前面に其設備をするとも飛砂は斷へず進行して波浪の如き砂の小岡を造成するが爲め多少の時日を要するのみにして飛砂は完全なる障害物に逢ふ迄進行を止めず右の如くして砂丘は人力に依て成生せらるゝこともあり天然の或る障害物により天然に成生することあり

(=)

島根縣の飛砂防備林

島根縣の西端なる簸川郡の海岸に於て古來より西々北の強風は殆ど定期の如くにして其海岸の砂を内地に吹送り耕地に大害を及ぼすが爲めに當局の苦心實に慘憺たるものありと雖も良方法を發見し得ず恰かも現今島取縣の海岸に於けるが如く單に藁又は竹の柵を以て飛砂を防止するに過ぎざり然るに延寶年間大槻七兵衛なるものありて防備林を完成したり、今其次第を大槻七兵衛事蹟より抜き書すれば

(前略)

然レ此白砂不毛ノ地ニ如何ニシテ造林ヲシヨウカコレ實ニ七兵衛ノ苦心ノ存ズル處デアルカラ詳説スル必要ガカル先松樹ヲ移植スル前此白砂不毛ノ地ノ土砂押しノ柴朶ヲ以テ高サ四尺位ノ砂除垣ヲ築イタルデアアルカクナセバ吹キ荒ム風ノ爲メニ運バレル砂土ハ此垣ニ支ヘラレテ堆積スル其堆積スルヲ待チテ又更ニ其上ニ柴朶ヲ高サ六尺位ノ垣ヲ築キカクスルコト數十回デ自然ノ風力ヲ利用シ

テ一ノ砂山ガ出來タノデアアル此砂山ノ裏面即チ風ノ當ラザル反對ノ方面ニ秋胡類子濱萩ナトノ根枝繁茂シテ土砂ヲ維持スルニ適當ナ灌木植物ヲ植付タノデアアル之ノ此ノ植物ハカ、ル砂地ニ適シテ成育モ速カテアル上ニ其根ノ蟠延スルノモ速カテアルカラテアルカクシテ脆弱ナル砂土ヲ固結セシメタノデアアル

斯ノ如ク砂土ノ固結ヲ待チテ初メテ松苗ヲ移植シタカ此苗木床ハ荒木村カラ南へ三里餘ハナレタ乙立村デ仕立テ之レヲ運ブニ馬一駄テ大概苗木百二十本位ヲ運ンダトノコトデアアル之レ松苗ノ長一尺位ノモノニ其枯死ヲ免レシメル水分ヲ保ツニ必要ナ粘土ノ凡ソ方四寸位ヲ付ケテ掘採シタル故重量ヲ増シタ譯デアアル猶此上ニ夏季枯損ノ豫防トシテ移植地ニハ松一本毎ニ粘土一升位ヲ埋メヲキ春季ニ及ンデ初メテ松苗ヲ移植スルニハ條ノ平行線式ニ植タノデ八通りノ松林ト呼ンダ爾後培養ト保護トヲ加ヘタカラ漸ク山林ノ姿トナツタノデアアル此第一歩ノ成效ハ更ニ七兵衛ヲシテ其外面側チ日本海ニ面スル方面ニモ前陳ノ手續デ垣ヲ作り其砂丘ノ連亘スルヲ待チテ例ノ灌木ヲ植エ後植松ノ手續ヲシタノデアアル (後略)

(三)

木曾川沿岸に起る飛砂と防備の實況

木曾川沿岸に於て飛砂に苦めらるゝ地方は起町以南津島町迄の間にありて其個所は數個所に亘る此地方に於て飛砂の猛威を逞めせしむるものは冬期に起る西風と木曾川沿岸の砂原なり現今にては其害未だ甚しからずと雖も各所に於て稍々砂丘の形をなし又は堤防を乗り越へて飛砂は耕地に侵入しつゝあり農耕者としては恐るべき大敵たらずんばあらず而して是れ等に對し如何に設備をなし居るやを調査するに極めて簡單にして藁蓆を砂丘上に立つるか然らざれば柴朶の如きものを立つるにあるのみ故に一旦其障害物を突破するに當りては忽ち飛砂は耕地に侵入して砂漠化せすんば止まず

(四)

神明津以北の一部の如きは西風を直角に受けて一日にして五尺の柵を埋むることあり

木曾川沿岸に於ける飛砂防備の方法

木曾川沿岸に於ける冬期の西風と木曾川搬出の土砂は到底人力を以て如何ともする能はず然れども其結果物たる飛砂の害は人力を以て防止せざるべからず即ち森林を造營して風の方位を變更せしめ従て飛砂の飛來を少なからしむるにあり

抑も木曾川沿岸に起る飛砂は其場所たるや木曾川身中の砂原と堤防附近とにあるを以て此砂原中に風向に對して三尺内外の柴桑又は蘆様の柵を水流に接したる部分より連立し初め其砂原に應じては數條の柵を要す斯くして飛砂と風力との幾分を軟くを得べし而して斯くすることに於て飛砂は是れ等の柵を全部埋め立つるに非ざれば堤防迄達するを得ざるを以て其襲來迄の期間を以て島根縣にて行ひたるの方法を執りて森林を造營するにあり然れども松樹は生長するに従ひ下枝は枯死し爲めに風は下部を吹き通して飛砂の便を能くする故此弊害を防ぐ爲め灌木の撰定が最も必要なり尙ほ木曾川沿岸に於ては喬木同時に植林すを可とす此の如くして森林を現出したる結果として風向は樹木枝葉の關係により一轉して上昇するものと再轉して上昇したるものは更に反對の方向を執るに到るべきを信ず風の方角にして此の如くなれば運搬せられたる飛砂も同様の方向を執り終に一所に堆積し若しくは森林を突破して耕地を荒廢に歸せしむることなかるべし (完)

愛知縣植物志料第三編

愛知縣植物志料第三編

名倉 闇 一 郎

○ *Carex Matsumurae* Franch.

きのくにすげ

根莖ハ斜ニシテ太シ。裸ハ側生ニシテ高サ一―二尺許強硬ニシテ暗ニ三角形ヲナシ平滑ニシテ下部ニ短葉アリ。裸葉ハ長クシテ稈ヲ超過シ幅四分―五分許綠色革質ニシテ脈ハ殊更基部ニ明ナリ、老鞘ハ褐色ナリ。小穂ハ四―五個ニシテ離ル、頂生ノ者ハ雄性ニシテ線形―圓柱形長サ一―一寸五分許短梗アリ直立ス、苞ハ鞘狀ニシテ短キ葉片アリ、雌花ノ鱗苞ハ披針形―卵形ニシテ頂端ハ截形略白色ナリ背ニハ三脈アリ短キ凸頭ヲナス。果壺ハ鱗苞ヨリ長ク膜質卵形―橢圓形ニシテ扁壓シ長サ一分五厘麥稈色ニシテ無毛多脈ナリ、基部ハ海綿質ニシテ長クシテ扁キ翼アル柄ヲナス、而シテ縁ニハ略翼アリ、嘴ハ漸次圓錐形ヲナシ孔ハ凹縁ヲナス、瘦果ハ略倒卵形ニシテ扁壓シ廣キ柄アリ、而シテ頂端ハ縮小シ一環ヲ載ス。花柱ハ基部尖塔形ヲナス。柱頭ハ二個ナリ。―果實ハ五月熟ス。―第十六圖版

本種ハ松村博士始メテ紀州ニ於テ發見セルモノニシテ柱頭二個ヲ有シタル *Rhomboides* 區ノ異品ナリ、載セテ *Kuekenh. Cyper.-Cario. p. 625* ニアリ、而シテきのくにすげナル和名ハ牧野根本兩氏合著東京帝國博物館日本植物乾腊標品目錄ニ載ス

沿海ノ林下ニアリ、縣下知多郡篠島。寶飯郡竹島

本邦ノ特産ナレトモ分布ノ状態極メテ不明ニシテ前記紀州ニ於テ松村博士ノ發見以來未タ他ニ於テ發見シタルモノアルヲ聞カス、今之ヲ本縣ノ小島ニ得タリ分布ノ上ニ一光彩ヲ添ヘタルモノトス

○ *Carex forficula* Franch. et Sav.

たにがはすげ

根莖ハ叢生ス。稈ハ細クシテ高サ一―二尺ニシテ銳角粗糙又ハ平滑ニシテ乳頭アリ基部ノ鞘ハ葉片ナク硬皮質ニシテ其間ニハ網狀絲アリテ之ヲ縫フ、而シテ常ニ中部ニ葉ヲ有ス。葉ハ稈ト略同長幅五厘―一分五厘許扁平裏面乳頭狀ヲナシ略強硬ナリ。小穂ハ四五個ナリ、頂生ノ雄穂ハ線形ニシテ梗アリ、側生ノ雌穂ハ細キ圓柱形長サ五分―一寸五分密花ナリ、上部ニアル者ハ接近シテ梗ナシ、葇荑離レテ短キ梗アリ直立ス。苞ハ刺狀葇荑葉狀ニシテ鞘ナク稈ヨリ短カシ。雌花ノ鱗苞ハ披針形銳尖頭―微凸頭暗―血色ニシテ背ハ廣ク綠色ニシテ三脈アリ。果壺ハ鱗苞ヨリ長ク又廣ク膜質卵形若クハ略倒卵形扁平―凸形一分許ニシテ麥稈色―綠色屢次紫色ノ腺点アリ無脈ニシテ柄アリ、縁ハ上部ニ細鋸齒アリ、嘴ハ長細ニシテ孔ハ紫色ノ二齒ヲナシ急ニ縮小ス。瘦果ハ稍密ニ閉居シ倒卵形ナリ。花柱ハ基部平等ナリ。柱頭ハ二個ニシテ可ナリ長シ。―果實ハ五月熟ス。―第十七圖版
山地ノ沼湖及ヒ溪流ニアリ、縣下八名郡山吉田村阿寺。寶飯郡鹽津村柏原。西加茂郡猿投山。東春日井坂下村内津

分布ハ本邦ニ在リテ北海道ヨリ四國九州ニ及ヒ又南滿洲ニアリ

○ *Carex prescottiana* Boott

根莖ハ叢生ス。稈ハ高サ一尺五寸―二尺五寸銳三角ニシテ平滑ナリ、基部ノ鞘ハ葉片ナク桂皮色若クハ紫色ニシテ豊カニ網狀絲ヲ以テ其間ヲ縫フ。葉ハ稈ト略同長幅一分五厘―三分五厘ニシテ扁平ナリ、乾腊セル者ニアリテハ其縁ハ反捲ス、表面ハ二脈突出シ略帶白色ニシテ革質ナリ。小穂ハ四―六個ナリ、頂生ノ雄穂ハ一寸三分―二寸六分(稀ニハ雌雄合体)線形―圓柱形ニシテ梗アリ、側生ノ者ハ雌穂ニシテ圓柱形長サ一寸三分―二寸六分密花ヲナス、上部ニアル者ハ短梗アリテ接近スレトモ、葇荑離レテ長梗

アリ、直立若クハ点頭ス、苞ハ葉狀ニシテ花序ヨリ微ニ長クシテ鞘ナシ。雌花ノ鱗苞ハ卵形若クハ倒卵形頂端多分ハ凹頭ニシテ淡鐵鏽色ナリ、縁ハ白色―透明ニシテ背ハ廣ク綠色ニシテ三脈アリ廣キ刺アル微凸ニ於テ終ル。果壺ハ辛シテ鱗苞ヨリ長シ然レトモ廣クシテ開展シ膜質廣卵形兩凸鏡形後ニ至リテ腫脹ス長サ一分末滿鐵鏽色―綠色ニシテ腺紋アリ基部截形ニシテ柄アリ縁ヲ有ス、頂端ハ後ニ反曲ス、嘴ハ短ク白色略全縁ニシテ短尖ヲナス。瘦果ハ圓形―卵形若クハ倒卵形ナリ。花柱ハ基部平等ナリ。柱頭ハ二個ナリ

本模範種、Kuekenh. *Cyper-Caric.* p. 356. ニ於テ *Faurie* 氏ノ採集品ニ基キテ本州及ヒ北海道ニ産スト記シ又松村博士著日本植物名鑑下卷ニハ九州五島ニ産スト載セタレトモ本縣ニ産スル者ハ次條ノ變種ナリトス

Var. *β. kiotoensis* (Fr. et Sav.) Kuekenh.

てんりすげ

稈ハ全ク粗糙ナリ、葉ハ稈ヲ超過ス、小穂ニハ長梗アリ、苞ハ長クシテ稈ヲ超過ス。―果實ハ七月熟ス。―第十八圖版

濕潤ナル砂地ニアリ。縣下北設樂郡三輪村奈根、豊根村袋間及ヒ坂宇場
本種ハ始メ *Dr. Rein* 氏京都ニ於テ發見セル者ニシテ (*Fr. et Sav. Enum. Pl. Jap. II. P. 135*) 殊ニ本州ニ多シト雖モ又四國ニ及フ

○ *Carex breviculmis* R. Br.

根莖ハ木質ニシテ下降シ叢生多頭ナリ。稈ハ細ク高サ七分―二寸許ニシテ葉ノ間ニ隱レ三角形ニシテ平滑ナリ。葉ハ稈ヨリ長クシテ幅五厘―七厘縁ハ回旋シ漸ク尖リテ剛直ナリ、下部ノ鞘ハ褐色ニシテ凋ミテ殘レリ。小穂ハ三―五個ニシテ密接ス、頂生ノ雄穂ハ線形長サ三分餘ニシテ梗ナシ、側生ノ雌穂ハ(頂

端屢雄性ナリ。廣楕圓形略密花長サ二分五厘—三分五厘ニシテ略梗ナシ。苞ハ葉狀ニシテ稈ヨリ長ク、寧ロ短キ鞘アリ。雌花ノ鱗苞ハ倒卵形ニシテ頂端截形屢凹形淡黃色、背ハ綠色ニシテ三脈アリ而シテ粗糙ナル芒ニ於テ終ル。果壺ハ鱗苞ト略同長ニシテ略直立シ膜質倒卵形若クハ廣楕圓形ニシテ略鼓張形—三角形長サ七分—一寸稜稜色—綠色ニシテ柔軟毛アリ後ニ至リテ屢略無毛多脈ナリ(竜骨突出ス)基部ハ翼アル柄ヲナシ漸次ニ細シ、頂端ハ短クシテ廣キ圓錐形ノ嘴ヲナス、孔ハ透明ニシテ略凹線ヲナス。瘦果ハ密ニ閉居シ倒卵形頂端ハ脹大—環形ヲナス。花柱ハ基部尖塔形ナリ。柱頭ハ三個ナリ
本種ハ濠洲ノ産ナリ

Subsp. *Royleana* Nees

あおすげ

根莖ハ時ニ匍枝ヲ曳ク。稈ハ高サ三四寸ヨリ一尺許ニ達シ上部ハ略粗糙ナリ。葉ハ稈ヨリ屢短ク幅七厘—一分餘ナリ。雌性小穂ハ略寬疎ニシテ長サ六分許ニ達ス、寧ロ略離レテ短梗アリ。雌花ノ鱗苞ハ長キ芒アリ。—果實ハ五月熟ス。—第十九圖版

陽地ニ於ケル林下ノ傾斜地ニアリ。縣下幡豆郡横須賀村津平、幡豆村挖島、一色村味濱。寶飯郡廣田村芦谷及ヒ大草、宮崎村石原。北設樂郡本郷村本郷。渥美郡豊橋。八名郡石卷山。知多郡武豊町武豊及ヒ篠島村

本種ハ東亞及ヒ南亞ニ産スルモノニシテ印度支那朝鮮滿洲ニ分布シ本邦ニ於テハ各處極メテ普通ナルモノナリ

Viburnum (ガキヤミ属) 品種ノ惣數ハ往古(1830) De Candolle 氏ノ *Prodromus* ニ於テハ四十七種ヲ擧ケ、近時(1912) Schneider 氏ノ *Handbuch* ニ於テハ増シテ五十四種ヲ掲ク、中ニ就キテ本邦ニ産スル者ハ松村氏著植物名鑑及ヒ牧野根本両氏合著日本植物乾腊標品目錄ニハ共ニ二十有三種ヲ載セ、白澤氏著

日本森林樹木圖譜ニハ其内七種ヲ圖說セリ、而シテ本縣ニ産スル者ハ僅ニ七種ニ過キ左ニ本邦ニ産スル惣テヲ列記シ殊ニ本縣ニ産アリテ白澤氏ノ圖譜ニ漏レタル者ニハ解説ヲ加ヘ且略圖ヲ添ヘ末尾ニハ分區ノ檢索表ヲ掲ケ種別ヲシテ一層明了ナラシメントス

Viburnum L.

Sect. I. *Opulus* Koehne (かんげゝ區)

無毛ナル灌木—喬木ニシテ裂片葉ヲ有スルニヨリ、他ノ區ト別區スルコト容易ナリ、葉ハ落葉シ、托葉ヲ存ス、果實ハ赤色ナリ、核ハ壓扁シ淺溝アリ、胚乳ハ堅固ナリ

○ *Viburnum Opulus* L.

かんげゝ

白澤保美著日本森林樹木圖譜下編第七十三版—圖ニ見ユ、本種ハ此區中唯一ノ本邦産種ニシテ往々人家ニ栽培シ花ヲ賞スル者アリ、歐洲ニ於テハ我邦ヨリモ盛ニ之ヲ觀賞スルト見ヘ花葉ノ變シタルモノ果實ノ色彩ヲ異ニシタル者等種々ナル形品アルヲ記載セリ (○ K. Schm. *Handb. Taubh.* II. P. 640) 元來本邦北部及ヒ中部ノ産ニシテ、近クハ江州伊吹山ニ産スルヲ知レトモ未タ本縣ニ産スルヲ知ラス、曾テ明治三十五年十月一日北設樂郡上津具村行人原ノ民家ニ栽培セルヲ見ル或ハ此地附近ニ産地アラント其來歴ヲ尋ヌルニ、移植者既ニ定シ究ムルニ由ナク、空シク遠地ヨリ移セシト傳フルノミ。—花季四月—五月。果實ハ九月—十月熟ス
分布ハ歐洲全土、北部亞弗利加、小亞細亞、高加索ヨリ西伯利亞ニ及フ

Sect. II. *Odontotinus* Rehd. (ガキヤミ區)

此區ニ於ケル適切ナル模範種ハかますみニシテ之ヲ他ノ區ヨリ區別スルハ主トシテ二對ノ

鱗片ヲ有スル冬芽ト直脈有齒ノ葉トニアリ

○ *Viburnum japonicum* Spreng. var. *typicum* Makino

はくたんぼく

葉ハ常緑ニシテ革質ナルヲ以テ區別容易ナリ、稀ニ花戸ニ栽培スルヲ見ル、本邦ノ特産ニシテ伊豆九州ニ分布スレトモ本縣ニハ産セス、小園ニ栽植セシ者ニ在テハ花季四月―五月果實ハ十一月熟セリ、別ニ Var. *bouianse* Makino しまはくたんぼくアリ小笠原島ノ産ナリ

○ *Viburnum phlebotrictim* Sieb. et Zucc.

をんごようぢうめ

白澤保美著同上下編第七十三版19―25圖ニ見ユ、葉ハ小ニシテ毛茸ナク、長サ一寸五分―二寸五分、裏面ノ脈上ニ粗毫アリ、柄ハ甚短ク一分許ナリ。花序ハ点頭シ直徑六分―一寸二分ニシテ僅數花ヲ着ク、雄蕊ハ甚短ク花冠ノ内ニ閉居ス。―花季五月。果實九月―十月

山地ノ叢林ニアリ、北部ニ多ク南部ニ稀ナリ。縣下渥美郡谷川雲谷峠。東加茂郡賀茂村大多賀。北設樂郡豊根村猪古里、同村下黒川、稻橋村峰山、園村御園。―本邦ノ特産ニシテ四國九州ニ分布ス

○ *Viburnum Wrightii* Miq.

みやまがますみ

葉ハ前種ヨリ大ナリ、毛茸ナクシテ葉裏ノ脈上粗毫アルコト前種ノ如シ、然レトモ葉ノ最廣部ハ中央以上ニアリテ、柄ハ二分五厘以上ナリ、開展セル枝ヲ有スル灌木ニシテ高サ壹丈餘ニ達ス。初年ノ枝ハ帶白褐色ナリ。葉ハ長サ一寸八分―四

寸幅一寸―二寸ニシテ、上面淺綠色ニシテ下面ハ淺シ、脈ハ六―八對ニシテ、粗毫アリ、而シテ兩側ニハ十二―二十個(二十五)ノ齒牙アリ、葉柄ハ長サ二分五厘―五分。花序ハ直徑一寸五分―二寸五分ニシテ、長サ四分―一寸未滿ノ柄ヲ存シ、微ニ毛茸アリ、花ハ直徑一分五厘許ニシテ帶紅白色。果實ハ球形、深紅色ニシテ三分許、漿質ナリ。核ハ卵形、扁平、幅一分八厘許、黃白色ニシテ、五個ノ縱線アリ。―花季四月―五月。果實九月―十月。―第二十圖版4―6

山地ノ叢林。縣下東加茂郡段戸山、賀茂郡大多賀。幡豆郡三和村貝吹。東春日井郡篠木村大泉寺、坂下村内津。南設樂郡鳳來寺山。北設樂郡豊根村川宇連、三輪村川合、上津具村、本邦ノ特産ニシテ本州中部ヨリ北海道ニ及フ

○ *Viburnum dilatatum* Thunb.

かますみ いよぞめ

白澤保美著同上下編第八十七版1―2圖ニ見ユ、

葉ハ幼枝及ヒ花序ニ毛茸アリ、而シテ其最廣部ハ中央以上ニアリ、短キ波狀齒牙ヲ存ス、柄ハ長サ三分五厘―五分。花序ハ直徑三寸ヲ過クルコトアリ。―花季五月―六月。果實九月―十月

山地及ヒ山足ノ原野。縣下北設樂郡下津具村、稻橋村塩山、豊根村坂宇場、金越、古真立、武節村小田木。寶飯郡本宮山(小林氏)幡豆郡三和村貝吹、幡豆村東幡豆(山下氏)。東加茂郡松平村九久平、旭村牛地、賀茂村越田和等縣下普ク之ヲ見ル。―四國九州ヨリ北海道朝鮮及ヒ支那ニ分布ス

○ *Viburnum crossum* Thunb.

いよばのがますみ

葉柄ニハ托葉アリ、一分―一分五厘ニシテ、托葉ハ同長若クハ長シ。葉ハ銳尖頭ヲ有シ、尖頭ハ急ニ突出ス。花序ハ直徑二寸五分ニ達シ、雄蕊ハ長クシテ花冠ノ外ニ抽出ス

高サ七八尺ニ達シ、廣又狀ノ枝ヲ有スル灌木ナリ。嫩芽ハ微細ナル密絨毛アリ、次年ノ枝ニ至レハ殆ト無毛ニシテ、紫色一帯褐白色ナリ。葉ハ卵形一披針形ニシテ、表面ハ濁綠色、ニシテ密ナラサル絨毛アリ、裏面ハ多少灰白色ニシテ絨毛アリ、脈ハ七一十對ニシテ、多少黃褐色ノ粗毫アリ、長サ一寸五分幅八分一長サ二寸四分幅七分若クハ長サ三寸幅一寸二分一吋五分ニ達ス、柄ニハ毛茸アリ、托葉ハ離落ス。花序ハ全部毛茸アリ、花冠ハ無毛ニシテ、帶綠白色ナリ。果實ハ赤色、卵狀圓形、長サ二分五厘幅一分八厘一二分。核ハ扁平ニシテ、背面ニ輕微ノ二溝アリ。一花季四月一五月。果實九月一十月、一第二十圖版1-3

山地ノ叢林、性質頑強ニシテ能ク瘠地ニ發育ス。縣下渥美郡二川町谷川、東加茂郡賀茂村越田和、下山村羽布、加藤氏、賀茂村大多賀。東春日井郡篠木村大泉寺。幡豆郡三和村貝吹。寶飯郡鹽津村柏原。八名郡八名村黒田、七郷村井代。南設樂郡長篠村横川。北設樂郡三輪村川合、豊根村戸ヶ島、下黒川、振草村鴨山。一分布ハ四國九州ヨリ臺灣朝鮮ニ及フ

Sect. III. *Tinus* Rehd.

此區ニ收ムヘキ品種ハ未タ本邦ニ發見セラレズ

Sect. IV *Megalotinus* Rehd. (やぶぢかり區)

此區ハ前區ニ能ク似タリ

○ *Viburnum tomentosum* Thunb.

やぶぢまり

白澤保美著同上上編第八十六版1-12圖ニ見ユ、冬芽ニハ一對ノ鱗片アリ。花序ハ側枝ニ生ス、胚乳ハ分割セス。一花季四月一五月。果實九月一十月。本種ノ一變種ニシテ古來普ク栽培シテまりばなト稱スルモノアリ Var. *plioctum* Maxim. ニシテ花ハ總

ラ中性花ニ變シ花序ハ球形ヲナシタルモノナリ

叢林ノ湿地。縣下幡豆郡三和村貝吹。八名郡山吉田村黃柳野。北設樂郡豊根村坂字塙、下黒川、振草村鴨山。南設樂郡長篠村豊岡、鳳來寺村鳳來寺山。東春日井郡坂下村内津。一分布ハ四國及ヒ支那ニ及フ

Sect. V. *Lantana* Rehd. (みやまこぐれ區)

葉ハ落葉ニシテ、托葉ナシ、而シテ裸芽ト星狀毛トニヨリ容易ニ識別スルヲ得ン、

○ *Viburnum urceolatum* Sieb. et Zucc.

みやまこぐれ

本種ハ曾テ信濃御嶽山 (Ang. 16, 1910, fl.) 及ヒ加賀白山 (Ang. 13, 1909, fr.) ニ於テ採集セリ書籍上ニハ其他四國九州ニ産スト載セテ本州ニ稀ナラスト雖モ本縣ニハ之ヲ産セス、予ハ栽培ヲ試ミタレト夏季虫害ニ罹リ易ク良蹟ヲ得ス

○ *Viburnum Carlesii* Hensl.

ちやうじがますみ

本邦ニ於テ本種ヲ發見セルハ芳野某氏ヲ以テ始メトス明治三十五年備中ニ於テ採集セリ、同年先學牧野富太郎氏 (東京植物學雜誌第百八十六號百五十六頁) 之ニ *V. bichuense* nov. sp. ナル種名ヲ創定シびつちうがますみト稱セリ更ニ同四十二年 (全上第二百七十二號二百五十二頁) ニ至リテ再查シ前記 *V. Carlesii* Hensl., in Jour. Linn. Soc. xxiii. P. 350. 1888 ナル種名ヲ充當セリ此種ハ元來朝鮮ノ産ニシテ *Carles* 氏ノ採集ヲ始トス、稀品ニシテ未タ之ニ接スルノ機ヲ得ス

Sect. VI. *pseudotinus* Rehd. (おんから區)

此區中ニ抱有スル者ハ他ノ區中ニ收メタル品種ニ近似ス

○ *Viburnum furcatum* Blume

むじかり てんまる 北設楽郡方言

白澤保美著同上下編第七十四版24—31圖ニ見ユ
冬芽ハ裸ニシテ、花序ハ主枝ノ頂端ニアリ、胚乳ハ分割ス。一花季四月—五月。果實七月—八月
本種ノ花序ハ冬期ニ發達シ、嫩葉ハ早春ニ蛾眉ヲ畫キ、花ハ未タ含笑ニ及ハサルモ己ニ愛スヘキ姿態アリ、殊ニ茶人ニ於テ床頭瓶中ノ珍トシテ觀賞セラル
森林藪澤。縣下東加茂郡賀茂村金藏連。北設楽郡三輪村川合其他北部ニ稀ナラス。一分布ハ四國九州北海道ヨリ察加連島ニ及フ

Sect. VII. *Thysosma* Rehd. (ヤヅリノミ)

花序ニヨリテ區別判然タリ、葉ハ全縁若クハ齒アリテ、托葉ナシ、胚乳ニハ割目アリ、若クハ單面ナリ、

○ *Viburnum odoratissimum* Ker.

ヤヅリノミ

白澤保美著同上下編第八十八版1—9圖ニ見ユ
葉ハ常緑ニシテ全縁若クハ略全縁ナリ、脈ハ葉縁ニ達スルニ先タチ轉向シテ直射セス。一花季六月—果實九月—十月

本縣南部沿海ノ地人家往々栽植スル者アリ。然レトモ未タ自生ヲ見ス、書籍上ニハ西ハ攝津伊丹東ハ武藏伊豆ニ産スト載ス、果シテ然ラハ其中間ヲ占メタル本縣ニ在テハ必ス自生ヲ見ルヘクシテ反テ未タ之ヲ見サルハ斧鉞ノ災ニ罹リテ其跡ヲ絶テタルモノカ、抑栽植スル者アルハ蓋其跡ヲ留メタル者ナランカ此種ハ素暖地ノ産ニシテ本邦ニテハ對馬九州ヨリ朝鮮臺灣印度ヒリツピン島ニ分布ス

○ *Viburnum sandankwa* Hassk.

こもいゆ 又こうらうめ

本種ハ琉球ノ特産ニシテ書籍上其餘ニ産スルヲ見ス、我地方ノ花戸ニテハ之チこうらばいと稱シテ販賣ス、曾テ小園ニ試植セシニ早春花ヲ開キテ結果セス、地ニ適セサルト見ユ

附

區ノ檢索表

A 花序ハ平頭微房花ニシテ一点ヨリ二個以上ノ主軸ヲ出ス

I. 核ハ背溝及ヒ腹溝ヲ存ス若クハ之ヲ缺ク(平滑ナリ)

a. 冬芽ハ一—二(—四)對ノ鱗片ヲ有ス、毛茸ハ多分ハ星狀ヲナス、殊ニ叢毛アリ、若クハ葉其他ハ無毛ナリ

Sect. I. *Opulus*

1. 葉ハ總テ裂片葉ナリ

2. 葉ハ裂片葉ニアラス、唯齒アリ若クハ全縁ナリ

a. 果實ハ光輝アル赤色、核ハ卵形—廣卵形ニシテ、三個ノ腹溝及ヒ二個(屢不明)ノ背溝アリ
葉ニハ齒アリ、脈ハ多分齒ニ走入ス、托葉ハ時ニ存スルコトアリ、冬芽ハ二(—四)對ノ鱗片アリ

Sect. II. *Odontolobus*

b. 果實ハ帶黑褐色若クハ紫色ニシテ、冬芽ハ一對ノ鱗片ヲ有ス、葉ハ全縁若クハ齒アリ、多分網狀ノ支脈アリ、托葉ナシ

○ 核ハ球形—卵形ニシテ、溝ナシ、胚乳ニ深キ裂罅アリ Sect. III. *Tinus*

○ 核ハ多少壓窄シ溝アリ、卵形若クハ廣橢圓形ナリ Sect. IV. *Megalotinus*

b. 冬芽ハ裸ナリ、果實ハ黑色若クハ帶褐黑色ナリ、核ハ甚々扁平ニシテ、淺溝アリ、氈狀星毛アリ

ル灌木ナリ

Sect. V. *Lantana*

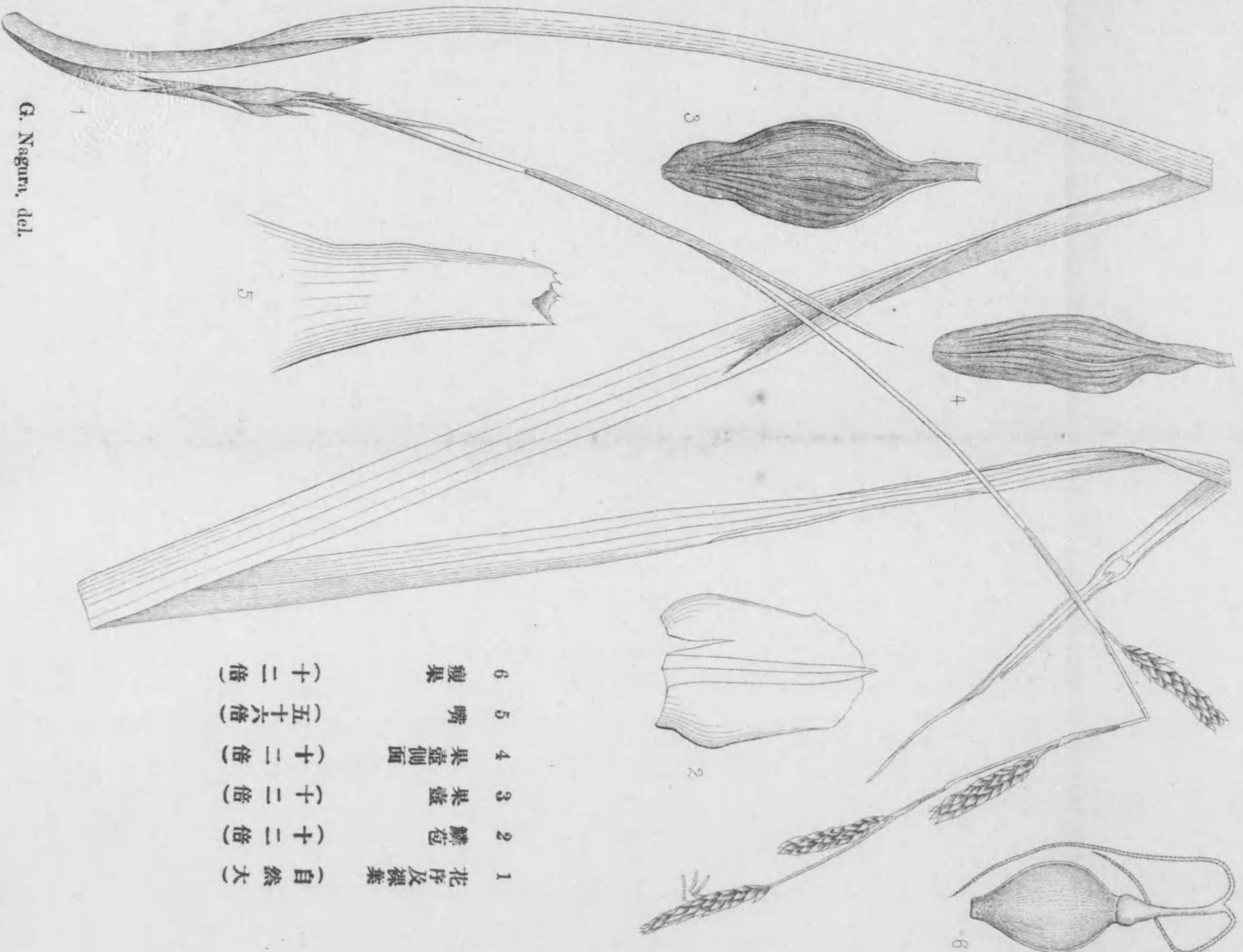
II 核ハ一個ノ深キ腹溝アリ、花序ハ梗ナクシテ枝端ニアリ若クハ梗アリテ側生ス、果實ハ紫色若ク

Sect. VI. *Pseudotinus*

ハ帶褐黑色ナリ、盤狀星毛アル灌木

Sect. VII. *Physosma*

B 尖塔狀繖房花序ヲ有ス、果實ハ黑色若クハ紫色、核ハ一個ノ深キ腹溝アリ

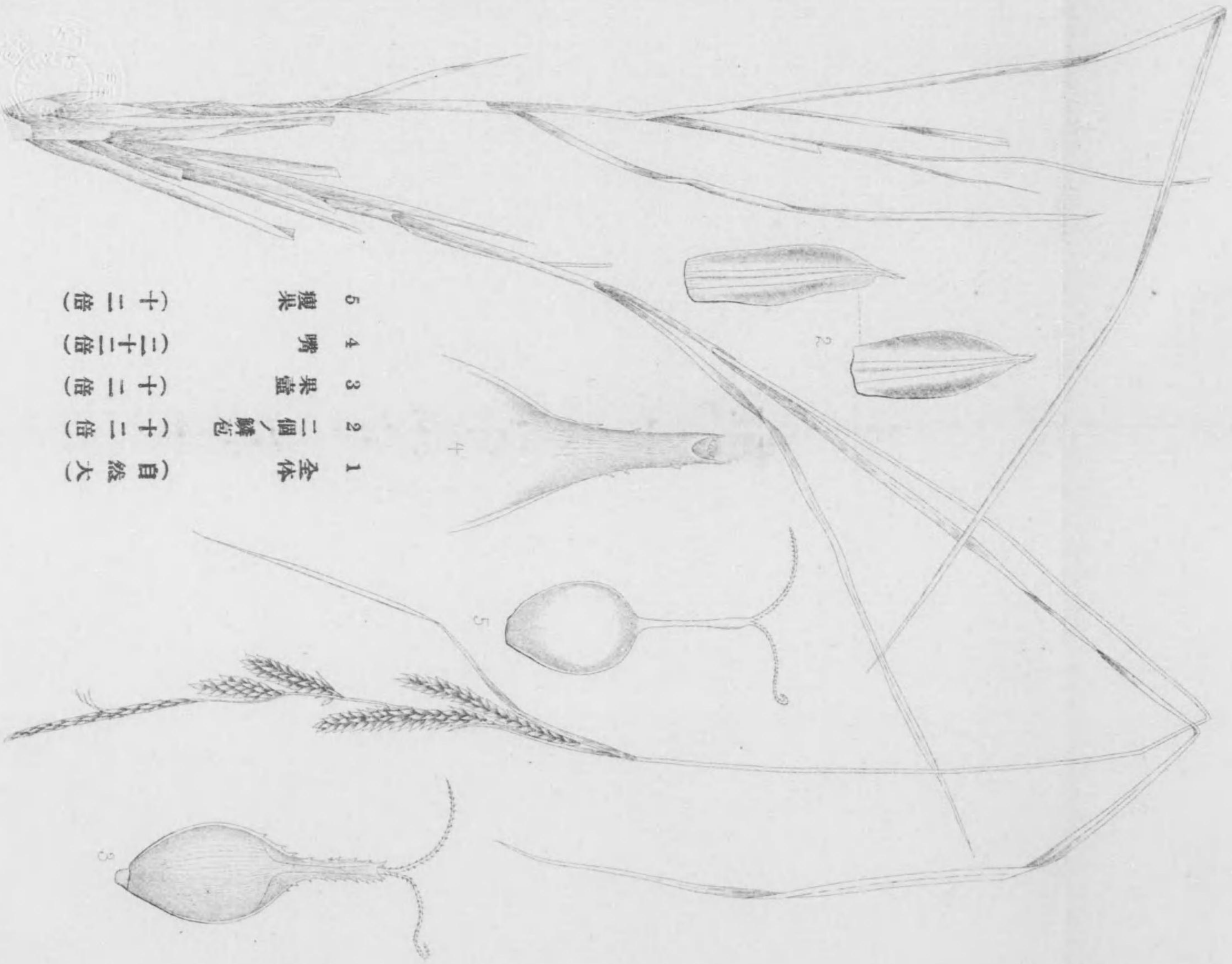


- 1 花序及裸葉 (自然大)
- 2 鱗苞 (十二倍)
- 3 果壺 (十二倍)
- 4 果壺側面 (十二倍)
- 5 嘴 (五十六倍)
- 6 瘦果 (十二倍)

G. Nagura, del.

Carex Matsumurae Franch
けすにくのみ

G. Nagura del.

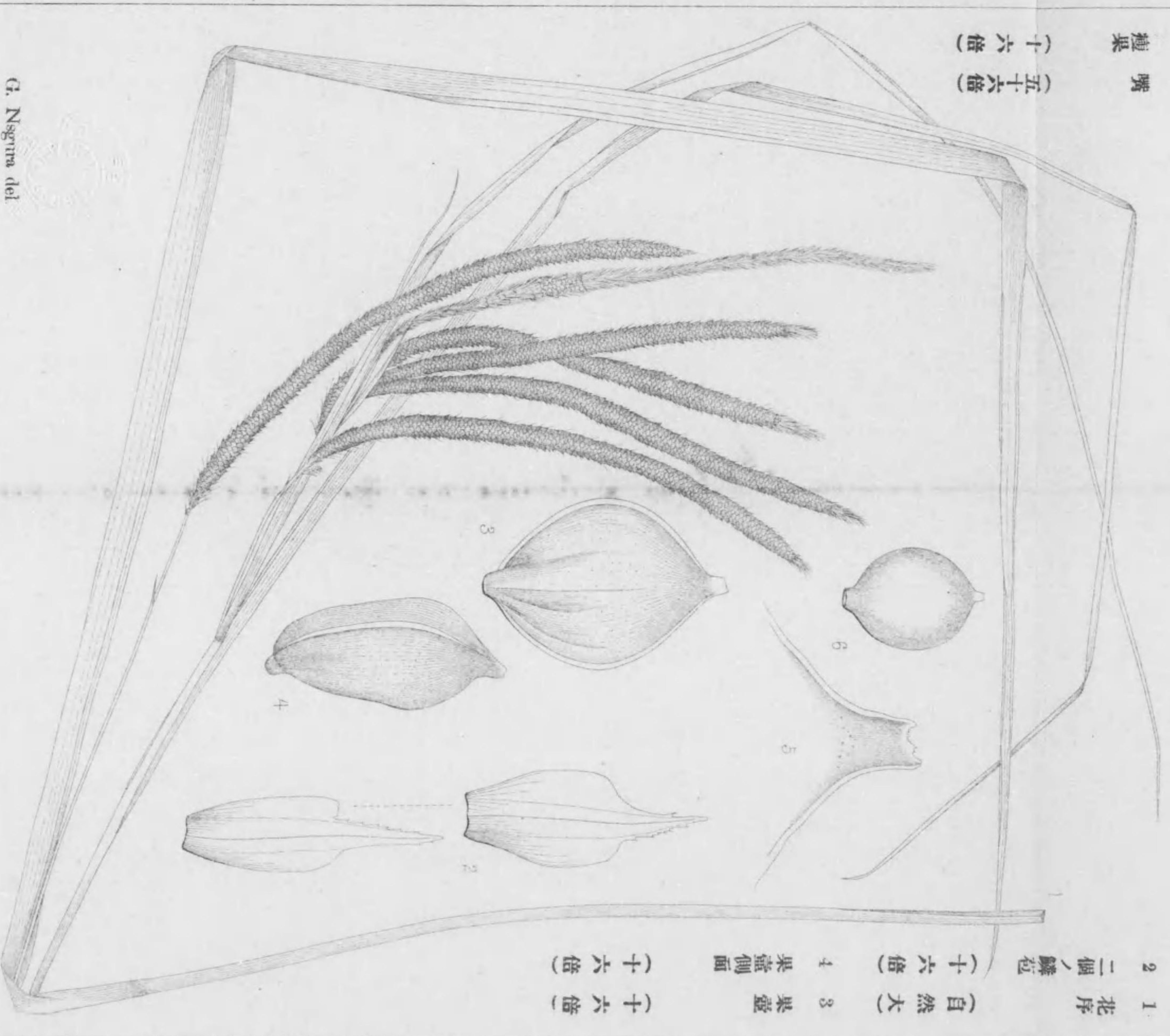


- 1 全体 (自然大)
- 2 二個、鱗苞 (十二倍)
- 3 果壺 (十二倍)
- 4 嘴 (十二倍)
- 5 瘦果 (十二倍)

Carex forficula Franch. et Sav. げすはがにた

6 穗果
5 嘴

(五十六倍)
(十六倍)



1 花序

2 二個ノ鱗苞

(自然大)

3 果壺

(十六倍)

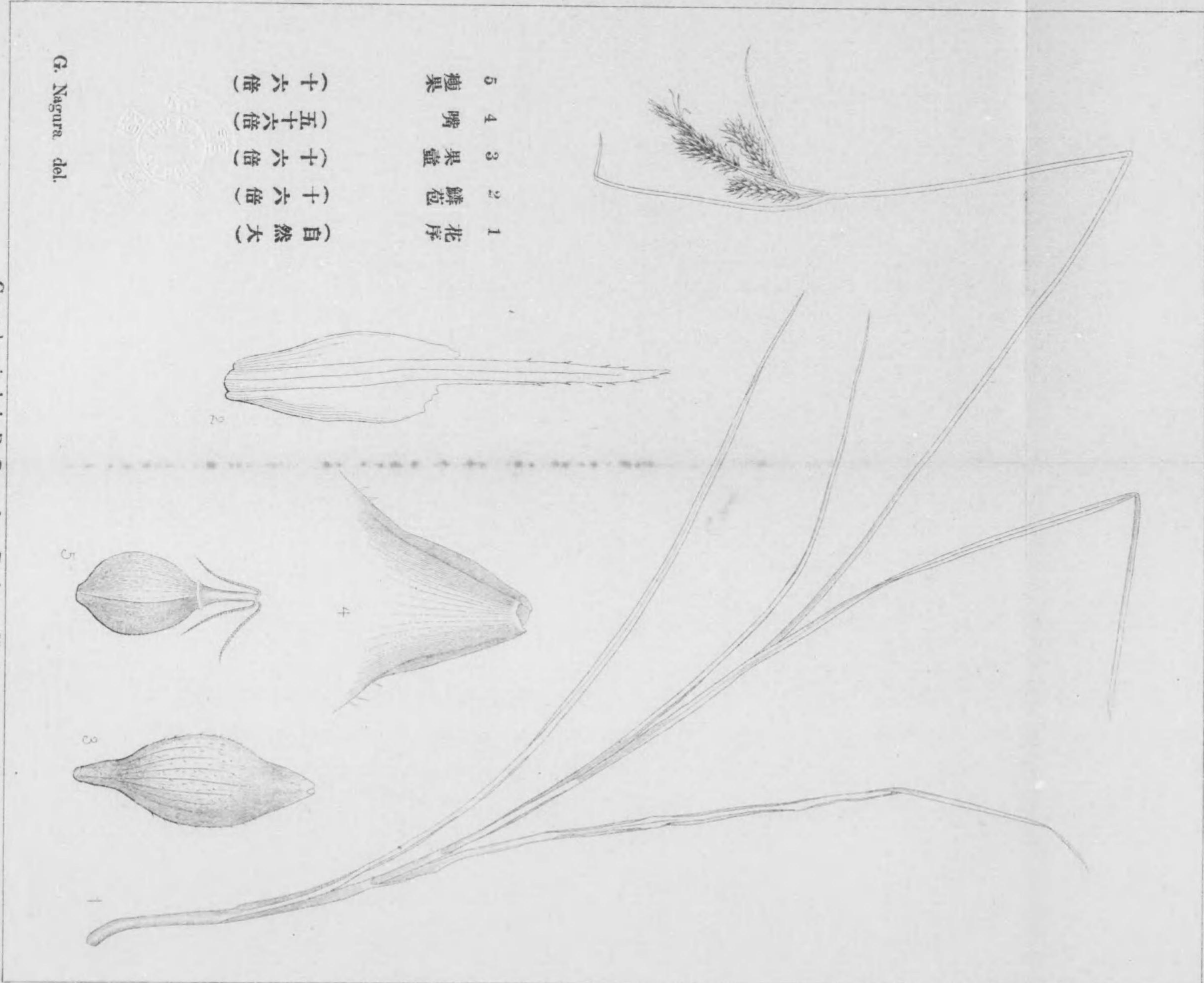
4 果壺側面

(十六倍)

G. Nigrina del

Carex prescottiana Boott. var. *p. kiotoensis* Kieckhef.

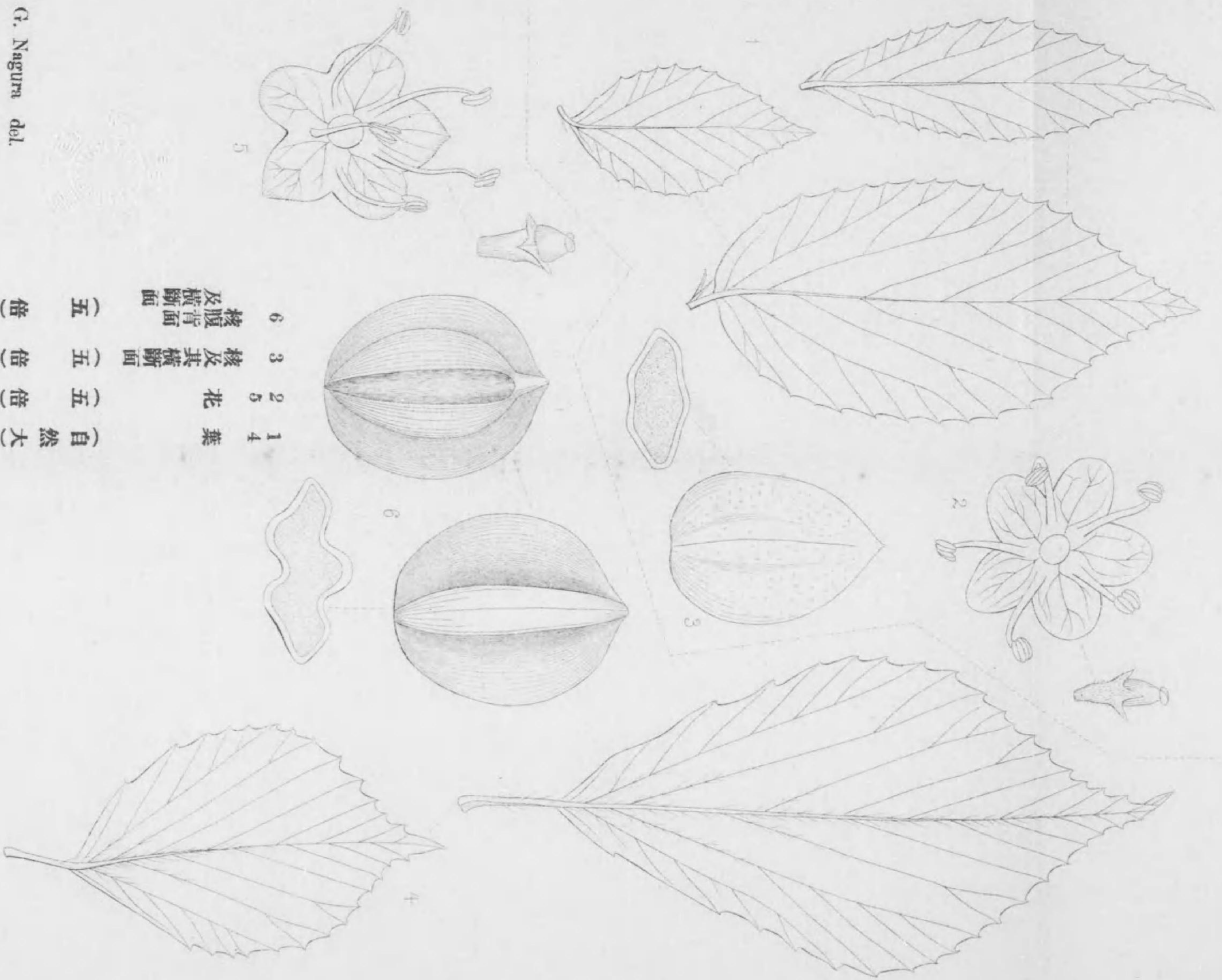
ウ ス リ キ ト



- 1 花序 (自然大)
- 2 鱗苞 (十六倍)
- 3 果壺 (十六倍)
- 4 喙 (五十六倍)
- 5 瘦果 (十六倍)

G. Nagura del.

Carex brevicaulis R. Br. subsp. *Royleana* Kuekenh. 花 序 果 壺 喙 瘦 果



G. Nagura del.

Viburnum erosum Thunb. 1—3
 みのがのば
Viburnum Wrightii Miq. 4—6
 みのがみやみ

74
327

大正五年三月廿五日印刷
大正五年三月三十日發行

愛知縣

印刷人 桑山幾太郎
名古屋市中區下廣井町一丁目三十三番地

印刷所 長谷川活版所
名古屋市中區下廣井町一丁目三十三番地
長電話三六九番

終

